

# 平成29年度 指導案集

|                           |     |        |       |    |
|---------------------------|-----|--------|-------|----|
| 1. はじめに                   | 校長  | 新開 眞琴  | ..... | 1  |
| 2. 表現                     | 幼稚部 | 中島 遥   | ..... | 2  |
| 3. 健康※                    | 幼稚部 | 竹内 祥   | ..... | 7  |
| 4. 国語（6年）                 | 小学部 | 伊坪 朋子  | ..... | 9  |
| 5. 数学（6年）                 | 小学部 | 北井 元子  | ..... | 15 |
| 6. 自立活動・造形（4年・6年）         | 小学部 | 衞宜 志枝  | ..... | 19 |
| 7. 自立活動・歩行（3年）※           | 小学部 | 田中 良子  | ..... | 26 |
| 8. 美術（1・2・3年）             | 中学部 | 吉田 綾   | ..... | 27 |
| 9. 数学（2・3年）               | 中学部 | 岡野 洋志  | ..... | 34 |
| 10. 理科（1年）                | 中学部 | 熊谷 伸紀  | ..... | 42 |
| 11. 自立活動・作業（A組）※          | 中学部 | 中屋 菜穂子 | ..... | 50 |
| 12. 世界史B（2年A類型）           | 普通科 | 辰己 祐幸  | ..... | 52 |
| 13. 数学A（2年A類型）※           | 普通科 | 片桐 向陽  | ..... | 65 |
| 14. 自立活動・歩行（2年C類型）※       | 普通科 | 渡邊 史子  | ..... | 67 |
| 15. 社会と情報（1年A類型）※         | 普通科 | 藤原 優子  | ..... | 69 |
| 16. 社会（1・2・3年B類型）※        | 普通科 | 加賀 一朗  | ..... | 71 |
| 17. 運動（1・2・3年BC類型）        | 普通科 | 石橋 典子  | ..... | 73 |
| 18. 疾病と衛生（専攻科保健理療科2年）     | 理療科 | 尾方 剛   | ..... | 77 |
| 19. 東洋医学概論（専攻科理療科2年）※     | 理療科 | 小川 博之  | ..... | 81 |
| 20. 人体の構造と機能（専攻科保健理療科1年）※ | 理療科 | 中垣 幸一  | ..... | 82 |
| 21. 生活と疾病（専攻科保健理療科3年）※    | 理療科 | 井本 誠司  | ..... | 83 |
| 付録 平成29年度 研究授業アドバイスシート    |     |        | ..... | 84 |

※は指導略案

## 大阪府立大阪北視覚支援学校

## はじめに

本校は視覚に障がいのある幼児児童生徒を対象にした特別支援学校です。

幼児児童生徒の個々の実態に応じた専門性の高い教育を行い、社会参加への力を育成することを目標に掲げています。本校では年々、幼児児童生徒の障がいの重複化が進んでおり、重複障がい幼児児童生徒への実践と記録を重ねることが求められています。また幼児児童生徒数も減少傾向にあり、それに伴い、転勤や退職で教員数が減少してきています。その中で、学校組織としての視覚障がい教育の専門性の維持・継承・発展が必要不可欠です。

そのような現状の中、平成 29 年度学校経営計画に「すべての教員が 3 年ごとに一度研究授業を実施し、授業力の向上と視覚障がい教育の継承を図る」ことを掲げ、一年間全校を挙げて研究授業に取り組んでまいりました。またそのような研究授業体制に向けて、学部ごとに研究授業アドバイスシートを作成し、研究授業の効率的なフィードバックにも努めてまいりました。

本冊子は今年度実施された研究授業の学習指導案 21 本を収録しています。本冊子を本校教職員及び多くの教育関係者に公開することで、多方面からご示唆をいただき、さらなる本校の授業改善と視覚障がい教育の維持・継承・発展へと繋げていくことを目的としています。

皆様からの忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願いいたします。

平成 30 年 3 月吉日

大阪府立大阪北視覚支援学校

校長 新開 眞琴

## 「表現（ふれあいリズム）」保育指導案

|     |     |    |     |
|-----|-----|----|-----|
| 指導者 | T 1 | 中島 | 遥   |
|     | T 2 | 奥西 | 美由紀 |
|     | T 3 | 北口 | たみ子 |
|     | T 4 | 井上 | 奈美  |

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第3時限（10：50～11：30）
2. 対象 幼稚部〇〇グループ（4・5歳児） 幼児4名
3. 場所 幼稚部そらの部屋
4. 単元名 「ふれあいリズム」
5. 単元の目標
  - ・季節のイメージを広げる。
  - ・友だちとのかかわりを楽しむ。
  - ・数に興味関心をもち親しむ。

### 6. 指導にあたって

#### （1）幼児観

本グループは、5歳児3名、4歳児1名の計4名の幼児で構成され、うち全盲児1名、弱視児3名で見え方も様々である。リズムの時間には、身近な人とかかわりを楽しんだり、歌詞を覚え自信をもって歌ったり、季節の歌では、楽しいイメージをふくらませ、表現したりすることもできるようになってきている。

また1学期には、朝の人数調べなどから数への興味関心が見られたことから、数を身近に感じ、親しみがもてるように数の出てくる手遊びや歌を取り入れて遊んだ。その一つとして、『どうぶつ時計』の歌を使い、簡単なルールのある遊びで数を出題する側と数を当てる側になり、友だちとかかわりながら楽しんだ。幼児それぞれに興味関心の幅はあるが、指を使ったり、指を使わないで数を数えたりすることができるようになり、数に親しみがもてるようになってきている。

#### （2）教材観

季節の歌を歌ったり、実際に触ったり経験したりすることを通して、季節を感じるができるようにしてきている。秋の季節を感じるができるものとして、虫の声や木の実を使うことは、幼児にとって身近で馴染みがあるものである。その中でも、どんぐりは実際に公園で拾った経験もあり、幼児が扱うにはちょうどよい大きさである。どんぐりを触るだけでなく、上から落としたり、転がしたりして、いろいろな素材の容器で受けることで、様々な音を聞いて楽しむことができる。また、どんぐりの数を数える時には、『どんぐりぼうやがたんけん』の歌を使う。この歌は繰り返しがあり、子どもたちが歌に合わせて表現することを楽しめる歌であると考え選んだ。楽しい雰囲気の中で数に触れることができるように、歌にあわせて転がし遊びを楽しむようにしている。グループの友だちと一緒に歌を歌ったり、数を数えたりすることで、友だちとのやりとりを通してかかわりを楽しむことができると考える。

### (3) 指導観

歌に合わせてどんぐりを転がし、転がった音で「いくつ鳴ったかな」と遊びの中で数を数えることを楽しませたい。樋を使って転がしたどんぐりを様々な容器で受け、容器によって異なる音を楽しめるようにすることで、落ちてくる音への期待感をもちながら数に親しみがもてるようにする。どの容器に入る音が楽しいかを発表させたり、どんぐりを転がす人と数える人の役割を交代させたりしながら、友だちとのかかわりを楽しませたい。子どもの見え方や数の認識はそれぞれに違いがあるので、別の容器に移して数えることができるようにし、音とどんぐりの数が合っているかを確かめることができるようにする。これらの活動を通して、友だちと役を交代したり子どもからの発言を促したりしながら遊びを楽しみ、友だちとかかわる力をつけることができるようにしたい。

### 7. 評価の観点

| 関心・意欲・態度                | 思考・判断・表現                               | 技能                                | 知識・理解  |
|-------------------------|--|-----------------------------------|--|
| ・秋の自然物に興味関心をもち、関わろうとする。 | ・歌に合わせて表現することを楽しむ。<br>・木の実が容器に入る音を楽しむ。 | ・音の数と物の数が合っているかを別の容器に移し替えて確かめられる。 | ・容器に入る音で数を数えることができる。<br>・場に応じた友だちとのやりとりができる。 |

### 8. 指導計画（全4時間）

| 次  | 時  | 活動内容                               | 評価規準     |          |    |       |
|----|----|------------------------------------|----------|----------|----|-------|
|    |    |                                    | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
| 第一 |    | ・こおろぎなどの虫の声を聞いたり、歌を歌ったりして秋の虫に興味をもつ | ○        | ○        |    |       |
| 第二 |    | ・木の実を知ったり、さわったりして興味をもつ             | ○        | ○        |    |       |
| 第三 |    | ・木の実を転がし、その音を聞いて楽しむ                | ○        | ○        |    | ○     |
| 第四 | 本時 | ・どんぐりを転がし、音を聞いて数を数えたり、友だちとかかわったりする | ○        | ○        | ○  | ○     |

## 9. 本時

### (1) 本時の目標

- ・ どんぐりを使い、数に親しむ。
- ・ 友だちとのやりとりを楽しむ。

### (2) 本時の評価の観点

- ・ 転がる音を聞いて数を数えようとする。
- ・ 友だちとかかわろうとしている。

### (3) 本時で扱う教材・教具

箱いす、どんぐり、樋、容器（銀の皿、プラスチックカップなど）

### (4) 幼児の実態と本時の目標

|   | 幼児の実態   | 本時の目標   | 評価規準  |
|---|---|---|---|
| A | <p>5歳児、女子、全盲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指を使って数えることが多いが、指を使わず数える場面もみられるようになってきている。</li> <li>・ 興味や自信のあることには意欲的に活動に参加し、自分の考えを発表することもある。</li> <li>・ わかる環境や活動の中では、友だちと話をすることを楽しんだりしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 容器に入った音を聞き、どんぐりの数を数える。</li> <li>・ 友だちとのやりとりを積極的に楽しむ。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんぐりの数と音の数を一致させながら数えられる。</li> <li>・ 自分から投げかけた質問に、友だちが答えてくれるのを楽しんでいる。</li> </ul>  |
| B | <p>5歳児、男子、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数への興味関心が強い。</li> <li>・ 好きなことや興味関心のあるものには意欲的に集中して活動に参加する。</li> <li>・ 友だちとかかわることは少ないが、配達することなどわかる活動では友だちとかかわる場面がある。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんぐりが容器に入る音を楽しみながら数える。</li> <li>・ 自分の役割をわかり、友だちとかかわろうとする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんぐりの転がる音を聞いて、数を数えている。</li> <li>・ 転がす役か数える役か役割を考えて、質問したり答えたりすることができる。</li> </ul> |
| C | <p>5歳児、男子、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数えることや残りの数など数の理解はできている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 容器に入った音を聞き、どんぐりの数を数え、友だちの答えに関心を</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちが答えた数と自分の数が同じであるか考えたり、意見を聞き</li> </ul>  |

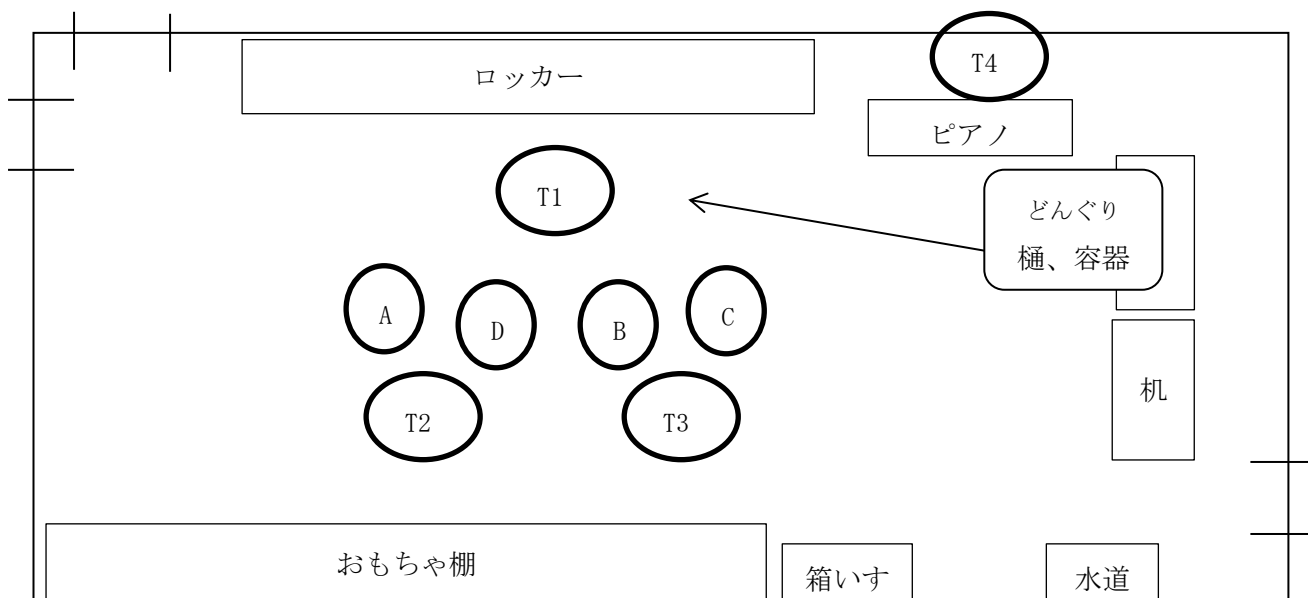
|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信のあることには積極的に活動に参加しようとするが、自信のないことは発表に時間がかかってしまうことがある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・もってきく。</li> <li>・わかる遊びの中で、友だちとかかわろうとする。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・たりして確かめようとしている。</li> <li>・自信をもち質問したり答えたりすることができる。</li> </ul>                            |
| D | <p>4歳児、男子、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量に関心をもち、指を使い数を数えられるようになってきている。</li> <li>・様々な活動に意欲的に手をあげ挑戦しようとする。</li> <li>・自分から友だちにかかわることは少ないが、好きな遊びであると友だちに誘われて遊ぶことがある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数を自分から数えようとする。</li> <li>・友だちの発表を聞き、かかわろうとする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりが転がる音を期待して聞き、数を数えている。</li> <li>・友だちの発表を聞き、自分の考えを述べたり、答えが同じであるか確かめたりしている。</li> </ul> |

(5) 本時の展開

| 時間    | 活動内容  | 指導上の留意点及び支援のてだて等  | 環境構成                                  |
|-------|---|---|---------------------------------------|
| 10:50 | <p>○始まりのあいさつをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『グループの歌』</li> <li>・『名前呼びの歌』</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番の号令であいさつを行い、気持ちを活動に向けられるようにする。</li> </ul>   | 箱いす                                   |
| 11:00 | <p>○手遊びをしたり、歌を歌ったりする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『こちょこちょさん』</li> <li>・『ゆびのはくしゅ』</li> <li>・『秋の空』</li> <li>・『どんぐりぼうやがたんけん』</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指の動かし方に慣れるように、動かし方を確認しながら行う。</li> <li>・しっかり歌うことができるように言葉掛けをする。</li> <li>・歌に合わせた表現の仕方を真似したり、共感したりして楽しめるようにする。</li> </ul> |                                       |
| 11:15 | <p>○転がし遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりを転がす</li> <li>・数を数える</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・転がした音で数を数えることを意識させる。</li> <li>・始めは先生が行い、転がし方や数え</li> </ul>  | <p>どんぐり<br/>樋<br/>容器（銀の皿、プラスチックカッ</p> |

|   |  |   |             |
|---|--|---|-------------|
| <p>11:25</p> <p>○終わりのあいさつをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったことを発表する</li> </ul> <p>11:30</p> |  | <p>方を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの答えを聞き、数が同じであるか確かめさせる。</li> <li>・数を確かめやすくするために別の容器を用意しておく。</li> <li>・転がす役と数える役になり、役割を交代しながら友だちとのやりとりを楽しめるようにする。</li> <li>・楽しかったことを考えて発表できるような言葉掛けをする。</li> </ul> | <p>プなど)</p> |
|---|--|---|-------------|

(6)座席配置図(正面を上にして、幼児や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)



## 「健康（リトミック）」保育指導案

|     |     |    |     |
|-----|-----|----|-----|
| 指導者 | T 1 | 竹内 | 祥   |
|     | T 2 | 北口 | たみ子 |
|     | T 3 | 宮本 | 真弓  |
|     | T 4 | 小林 | 淳子  |

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第2時限（9：50～10：30）
2. 対象 幼稚部〇〇グループ（4・5歳児） 幼児5名
3. 場所 柔道場
4. 単元名 「体づくり」
5. 単元の目標
  - ・十分に体を動かし、心地よさを味わう
  - ・様々な体の動かし方をしる
  - ・簡単なルールのある遊びを楽しむ

### 6. 指導にあたって

本グループの幼児たちは、全盲児3名、弱視児2名の集団で、新しい環境や初めての活動など大きな変化には不安が強く活動の見通しが持ちにくい。情緒が安定していない幼児も多く、活動の途中で保育を中断せざるをえないこともある。また、以前は教師や友だちと手をつないだりふれあい遊びをしたりすることにも不安が強く、泣いて怒り嫌がる幼児もいた。しかし、日々の生活の中でじつくりと教師や友だちと関わりを積み重ね、繰り返しの活動を経験してきたことで、少しずつ情緒も安定し自分から人や物に関わる姿が見られるようになってきている。

視覚に障がいがある幼児は、日常生活において自分からめいっぱい体を使って遊んだり、動かしたりすることに制限がある。また、周りの大人や友だちの動きを見てその動きをまねる（模倣する）ことが難しく、体の使い方にもぎこちなさがある。そのため幼児期には、リトミックを通して空間認知の力や危険回避の力などを身につける必要があり、本校では「歩く」、「ジャンプ」など基礎的な動きや鬼ごっこやサーキットなど運動遊びにも取り組んできた。それらを積み重ねてきた本グループの幼児たちは、体を動かす楽しさを感じ、曲がはじまると自然と体を動かす姿も見られるようになった。また、言葉で体の動きをイメージし、体の動きをコントロールできつつある。さらに、細部まで意識も向けられるようになってきた。

そこで今回は、今まで取り組んできた基礎的な動きを基本とし、さらに調整力を身につけられるよう「だんだん遅く」や、「だんだん速く」などのリズムパターンに変化をつけた動きを取り入れた。また、体の動かし方が分かりにくい時には、実感しやすいよう道具（バー）を使うなど工夫をしていきたい。簡単なルールのある遊びでは、幼児たちが好きな「むっくりくまさん」を教師や友だちと一緒に楽しみ、思いっきり体を動かす心地よさも味わわせたい。



## 7. 指導計画

- ・曲に合わせて、体を動かす・・・14時間 本時8／14
- ・鬼ごっこを楽しむ・・・12時間 本時4／12

## 8. 本時

### (1) 本時の目標

- ・曲に合わせて、体を動かすことを楽しむ。
- ・曲の変化を聞き分け、いろいろな動きをやってみようとする。
- ・教師や友だちと一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。

### (2) 本時の保育過程

| 時間  | 活動内容  | 指導上の留意点および支援の手だて等   | 備考                       |
|-----|---|---|--------------------------|
| 導入  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 始まりのあいさつをする</li> <li>○ 「ジャングルグルグル」で準備体操をする</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・期待感をもって活動に参加できるよう声をかける。</li> <li>・安全に留意し、楽しんで体を動かせるようにする。</li> </ul>  | ピアノ<br>CDデッキ<br>太鼓<br>バー |
| 展開  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いろいろな体の動きを楽しむ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く、歩いて止まる、後ろ歩き</li> <li>・電車（バー）あげたり下げたり、カッチンコッチン</li> <li>・うさぎ、ふうせん、時計、おふね等</li> </ul> </li> <li>○ 「むっくりくまさん」をする               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールをふり返る</li> <li>・教師や友だちと一緒にむっくりくまさんをする</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって参加できるよう、取り組みに流れをつくる。</li> <li>・ピアノの音の高低、強弱、リズムなどに変化をつけ意欲や楽しさが引き出せるようにする。</li> <li>・体の動かし方のイメージがつかめるよう、わかりやすい声かけや動きを助けるバーなどの道具を使用する。</li> <li>・個々の実態に合わせた支援ができるよう、教師間の連携を密にとる。</li> <li>・広い空間を活用し、安全に留意しながら十分に体を動かせるようにする。</li> <li>・活動に入れないうちには、サブの教師と連携し無理のないように誘い、その子なりの参加ができるようにする。</li> <li>・教師も一緒に活動に参加し、楽しい雰囲気をつくる。</li> </ul> | 鬼ごっこ用の鈴                  |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動をふり返り、終わりのあいさつをする</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の幼児の頑張りを認め、次回への期待感が持てるようにする。</li> </ul>   |                          |

# 「国語科」学習指導案

指導者 伊坪 朋子

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第1時限（8：55～9：40）
2. 対象 小学部6年〇組 児童2名
3. 場所 小学部個別B教室
4. 単元名 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう  
「百年後のふるさとを守る」
5. 単元の目標
  - ・「伝記」という文章や、そこに描かれた人生に興味をもち、読むことを楽しもうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
  - ・目的に応じて、適切に表現を考えて書くことができる。【書くこと】
  - ・自分の経験や考え方と照らし合わせて、描かれている人物や出来事、筆者のものの見方・考え方についての感想をもっている。【読むこと】
  - ・同じ種類の本や文章を読み、「伝記」のもつ構成に気づいている。【言語についての知識・理解・技能】

## 6. 指導にあたって

### （1）児童観

クラスは4年1名、5年2名、6年2名の5人クラスであるが、主要教科は、習熟度に合わせて6年生の2人だけで行うことが多い。いつも少人数で活動しているため、人との関わりが少なく、経験も少ない。そのため、人物の気持ちの読み取りなどは苦手であり、『名前つけてよ』では、三日間での登場人物の気持ちの変化について細かい心の描写にまではなかなか気づくことができなかつた。しかし、自分が登場人物の立場であればどうかなど、見方を変えることで少しずつ自分と比較しながら感想を述べるできるようになってきた。

小学6年生となり、中学部進学が近づいてきているが、自分のこれまでの生活を振り返ったり、将来のことを考えたりする機会が少なかったため、自分について話したり、自分の思いを伝えたりすることは苦手である。

### （2）教材観

本単元は江戸時代に津波から村人を守り、大地震からの復興に携わった浜口儀兵衛という人物の「伝記」である。今まで、社会見学で防災について学び、地震の恐ろしさについても触れてい

るため、今回大地震による津波から村人を守った人物ということに対して考えを深めて読むことができると思われる。

また、「伝記」という文章について、構成を知り、読み取りの力を高めていく。「人物がしたことや業績について」、「人物の考え方」、「筆者の考え方」という三つの観点の読み取りをすすめ、読み取りの力をつけていく。

ここでは、伝記という文章やそこに描かれた人物の人生に興味をもつことをねらいとしている。これまで、登場人物の心情の変化を読み取る活動を行ってきたため、本單元においても、心情を読み取りながら、人物の生き方や考え方を読み取る。そして、自分が気になる人物の伝記を選び、その人物の行動や考え方などを自分と比較・関連させながら読み、自分の生き方についてまとめる能力や、考えたことを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりしようとする態度を身につけさせたいと思い、この單元を設定した。

### (3) 指導観

まず、「伝記」という文章に触れ、伝記の構成について理解できるようにする。

1学期の單元では、説明文で筆者の伝えたいことを読み取り、要旨をまとめるという活動を行った。筆者の思いが初めと終わりに書かれていることに気づき、今まで、なんとなく読み取っていたところから、筆者が何を伝えたいかを読み取ろうという気持ちになってきている。今回は、伝記という特性から、筆者だけでなく登場人物の心情も読み取るという今までとは違う読み取りを行っていく。

また、興味を持って伝記の世界に入っていけるよう、1学期から様々な人物の簡単な伝記を読む活動を続けており、伝記に慣れ親しんできた。その中から、自分が改めて読んでみたい人物を探し、友だちに紹介することを目的として、人物の考え方や業績に対して思ったことをまとめる。そこから、今までの自分を振り返り、どのような環境でどのような考えをもっていたかなどを偉人と比較しながら考え、改めて自分を見つめ直すことができるようにする。

## 7. 評価の観点

| 国語への関心・意欲・態度                 | 書くこと                                   | 読むこと  | 言語についての知識・理解・技能      |
|------------------------------|--|---|----------------------|
| ・伝記を読んだ経験や感想を、進んで発表しようとしている。 | ・伝記から読み取った事実と感想・意見を区別し、目的や意図に応じて書いている。 | ・伝記の特徴を捉えるとともに、内容の大体を捉えている。<br>・考えを発表し合い、自分の生き方についての考えを広げ | 他の伝記を読み、内容や構成を捉えている。 |

|  |  |                 |  |
|--|--|-----------------|--|
|  |  | たり深めたりして<br>いる。 |  |
|--|--|-----------------|--|

## 8. 指導計画（全7時間）

| 次 | 時         | 主な学習活動  | 指導上の留意点  | 評価方法   |
|---|-----------|---|--|--|
| 1 | 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの自分の生き方や考え方を振り返る。</li> <li>・伝記を読んだ経験や感想を発表し合い、学習の見通しを持つ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・P169「たいせつ」を読み、伝記を読む意義について確認する。</li> <li>・発表に向けて並行読書をすすめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝記を読んだ経験や感想を、進んで発表しようとしている。</li> <li>【関】</li> <li>・自分の生き方と関わらせて考えていくことを知り、見通しをもとうとしている。【関】</li> </ul>                      |
| 2 | 2         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章構成を確かめ、伝記の特色についてまとめる。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・P168 で伝記の書かれ方の特徴を確認し、その観点で読ませる。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝記の特徴を捉えるとともに、内容の大体を捉えている。【読】</li> </ul>   |
|   | 3<br>4    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「儀兵衛」がしたことや、その考え方や、筆者が考える。「儀兵衛」の業績の意味についてまとめる。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を表す言葉や儀兵衛の行動や会話文に着目させる。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や考え方についての描写を捉え、人物の生き方を読み取っている。【読】</li> </ul>   |
|   | 5<br>(本時) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「儀兵衛」の生き方や、筆者の考える「儀兵衛」の業績の意味について、自分の考えをもつ。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝記から読み取ったことを、自分と関わらせて考えさせる。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめることができる。【書】</li> <li>・感想や意見を発表し合い、今までの自分のことについて考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>【読】</li> <li>・伝記の構成を捉えている。【言】</li> </ul> |
| 3 | 6         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ伝記を読み、自分と比較して考えたことをまとめる。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ伝記を同じ観点で読ませ、自分の考えをまとめさせる。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みたい伝記を選び、教材と同じ観点で読んでいる。【読】</li> </ul>   |
|   | 7         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝記を読んで考えたことを発表し合い、</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生き方や考え方を振り返り、変容を実</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを発表し合い、自分の生き方についての考えを広げたり深</li> </ul>  |

|  |                    |            |             |
|--|--------------------|------------|-------------|
|  | 自分の生き方についての考えを深める。 | 感できるようにする。 | めたりしている。【読】 |
|--|--------------------|------------|-------------|

## 9. 本時

### (1) 本時の目標

- ・「儀兵衛」の生き方や、筆者が考える「儀兵衛」の業績の意味について、自分の考えを深める。

### (2) 児童の実態と本時の目標

| 児童名 | 児童の実態   | 本時の目標  |
|-----|---|--|
| A児  | <p>6年女子（右：0.03、左：0.01）</p> <p>&lt;読むこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンタジーなどの物語が好きで積極的に読書している。</li> <li>・点字での読みが苦手であるため、読み取りには時間がかかる。</li> <li>・読速度：右40字／分、左79字／分、両手90字／分)</li> </ul> <p>&lt;書くこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことには抵抗がなく、毎日の日記も1枚程度の日記をほとんど間違いなく書くことができる。</li> <li>・感想文などは苦手であるが、自分の気持ちを比喻などを使って表現することができる。</li> </ul> <p>&lt;話す・聞く&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要旨をまとめて話すことは苦手であるが、思ったことは積極的に発表できる。</li> <li>・友だちの発表を聞いてよかったところなどを伝えることができる。</li> </ul> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に授業に対して意欲的に臨んでおり積極的に発言する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読むべき場所を素早く見つけ出し、両手読みで読む。</li> <li>・行動や考え方についての描写を捉え、人物の生き方を読み取る。</li> <li>・人物と自分とを比較し、自分の生き方について考え、まとめる。</li> <li>・自分の考えを積極的に発表する。</li> <li>・友だちと自分との意見を比べて感想を述べる。</li> <li>・積極的に手を挙げて発言する。</li> </ul> |
| B児  | <p>6年女子、全盲。</p> <p>&lt;読むこと&gt;</p>   |  |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書をしようという意欲はあるが、本に対する関心は低く、1冊を読み終わるのに時間がかかる。</li> <li>・右手が優位で読むため、左手をあまり使っていない。</li> <li>・読速度：右260字／分、左80字／分、両手230字／分</li> </ul> <p>&lt;書くこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日記や作文などで自分の気持ちを表現することが苦手である。</li> </ul> <p>&lt;話す・聞く&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想などの要旨をまとめて発表することは苦手である。</li> <li>・友だちの発表を聞いて、よかった点や改善点などを伝えることができる。</li> </ul> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対しては意欲的であるが、気持ちの読み取りなど自分の苦手な部分に対しては消極的になりがちである。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・両手読みで教科書を読む。・筆者が考える業績の意味を読み取る。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・「儀兵衛」と比較して、自分がこうなりたかったことを書く。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発表する。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと自分の意見を比べて聞き、感想を述べる。</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に手を挙げて発言する。</li> </ul> |
|--|---|

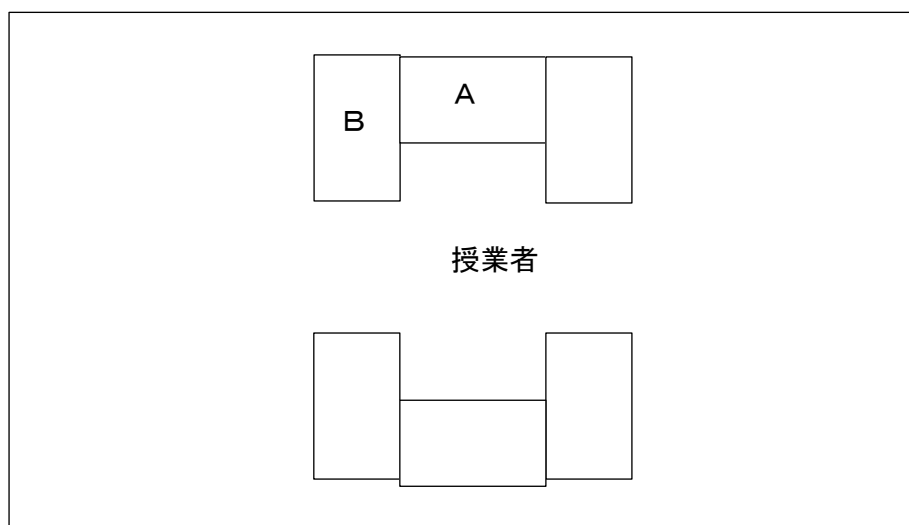
### (3) 本時の展開

|             | 学習活動   | 指導上の留意点・支援  | 評価規準  |
|-------------|--|---|---|
| 導入<br>(10分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりのあいさつをする。</li> <li>・本時の目標を確認する。</li> <li>・前時の振り返りをする。</li> </ul> <p>心に残ったことを振り返り、それが自分の心に強く残った理由を、「儀兵衛」のしたことや考え方から見つける。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの発表を行うことで、自分とは違う考えに触れることができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を知り、本日の見通しをもとうとしている。【関】</li> <li>・感想を伝え合い、自分とは違う考えに気づくことができている。【読】</li> </ul> |
| 展開          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が「儀兵衛」の業績に見いだしている意味についてまとめる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を想起させ短文でまとめられるようにする。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを読み取り、内容の大体を捉えている。【読】</li> </ul>   |

|                     |   |   |   |
|---------------------|---|---|---|
| <p>(30分)</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「儀兵衛」の生き方や、筆者が考える「儀兵衛」の業績の意味について自分の考えたことをまとめる。</li> <li>・書きまとめたものを発表する。</li> <li>・感想を伝え合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書きまとめるときの観点を明確に提示して、考えを引き出せるようにする。</li> <li>・発表前にどんなことに留意して聞くかを確認する。</li> <li>・お互いの意見を交換し合うことで自分とは違う考えに触れることができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や考え方についての描写を捉え、人物の生き方を読み取っている。<b>【読】</b></li> <li>・伝記の構成を捉えている。<b>【言】</b></li> <li>・発表し合い、自分の生き方について考えを広げたり深めたりしようとしている。<b>【読】</b></li> </ul> |
| <p>まとめ<br/>(5分)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめの伝記」から自分が選んだ人と、その人を選んだ理由を発表する。</li> <li>・本時のまとめをする。</li> <li>・次回の学習の確認をする。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に興味をもって本を選べるように「おすすめの伝記」一覧を用意しておく。</li> <li>・次回は自分が選んだ伝記から考えていくため、伝記を読み進めているか確認しておく。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が興味のある伝記を選び、内容を捉えようとしている。<b>【関】</b></li> </ul>  |

(4) 配置図

窓



出入口

# 「算数科」学習指導案

指導者 北井 元子

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第2時限（9：50～10：35）
2. 対象 小学部6年〇組 児童1名
3. 場所 小学部個別B教室
4. 単元名 「直方体や立方体の体積」
5. 単元の目標
  - ・立体の体積について単位と測定の意味を理解し、体積を計算で求めることができるようにするとともに、体積についての量感を豊かにする。

## 6. 指導にあたって

### （1）児童観

本学級は4・5・6年生児童5名からなる複式学級である。算数科において児童の実態に合わせ、グループ学習をしている。本グループの児童は昨年転入してきた弱視児1名で、点字を使用して学習している。

個別学習であることもあり、児童から積極的に意見を言う場面は少なく、わからない問題があっても教師からの助言を待つ傾向にある。本時は児童の好きな図形問題で、複合図形の体積の求め方という多様な解決方法を考える活動を通し、積極的に解決方法を考え、自分の考えを表現できるよう指導していきたい。

### （2）教材観

複合図形の体積の求め方にはいくつもの方法がある。多様な解決方法から共通点や相違点を見つける活動を通して、より簡単に、より正確にできる方法を考える。

また、児童は算数科では個別学習しているため、友だちと解決方法を話し合う機会もなく、自分や教科書以外の算数的な考え方にふれる機会が少ない。教科書の「友だちの考え」を説明する活動の中で、式から考え方を推論する過程を通し、見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を高める。



### (3) 指導観

立体を点図で表す場合、上から見た図と正面から見た図の二つで表す。その図を触ることで頭の中に立体のイメージを作り、イメージした立体が正しいかを面や辺、角など丁寧に触りながら確かめていく。複合図形は立方体や直方体などより頭でイメージを作るのが難しく、また確認しなければならない要素も多い。準備物で複合図形の模型を用意し、頭の中でイメージした立体と実物を比べながら確認できるようにする。本単元で、点図の触り方や立体の触り方も含め、触察の仕方を改めて学習し、児童が頭の中でイメージできる形を増やしていきたい。

また、自分の考えを言葉や式で表現したり、教科書の「友だちの考え」を読み、自分と違う考え方にふれることで算数的な思考力や表現力を伸ばしていきたい。

### 7. 評価規準

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 技能                 | 知識・理解                        |
|---|---|--------------------|------------------------------|
| ・既習の直方体や立方体の形を元にして考えていることに気づき、既習の内容を活用するよさがわかる。 | ・既習の求め方を活用し、複合図形の体積を求めることができる。<br>・自分の考えを言葉で説明したり、式で表したりすることができる。 | ・点図を正しく読み取ることができる。 | ・式からどのような求め方をしたのか読み取ることができる。 |

### 8. 指導計画（全10時間）

| 次 | 学習内容                                   | 目標   |
|---|--|--|
| 1 | もののかさの表し方<br>・直方体や立方体のかさの大きさの表し方（2）    | ・「体積」の意味や体積を表す単位「 $\text{cm}^3$ 」について理解する。                         |
| 2 | ・直方体、立方体の体積を求める計算（2）<br>・複合図形の体積の求め方の理 | ・直方体、立方体の体積を求める公式を理解し、公式を適用して体積を求めることができる。<br>・多様な方法で直方体を組み合わせた図形の |

|   |  |  |
|---|--|--|
|   | 解（本時）（１）   | 体積の求め方を考え、求めることができる。   |
| 3 | いろいろな体積の単位<br>・ $m^3$ の意味（１）<br>・ 「容積」の意味（１）<br>・ 学習内容の活用（１） | ・ 体積を表す単位「 $m^3$ 」や、「 $1 m^3 = 1000000 cm^3$ 」の関係について理解する。<br>・ 「内のり」「容積」の意味や容積の求め方について理解する。 |
| 4 | まとめ<br>・ 学習内容の習熟と理解（２）                                       | ・ 学習内容を適用して問題を解決する。<br>・ 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。   |

## 9. 本時

### （１）本時の目標

- ・ 多様な方法で直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を考え、求めることができる。
- ・ 複合図形の体積を求める式から、どのような求め方をしたのか読み取ることができる。

### （２）本時の展開

| 過程          | 学習活動   | 指導上の留意点   | 準備物                  |
|-------------|--|---|----------------------|
| 導入<br>（５分）  | ・ 直方体・立方体の体積の求め方を復習する。   | ・ 直方体・立方体の模型を触りながら、縦、横、高さがどこを表すのか確かめさせる。  | ・ 直方体・立方体の模型         |
| 展開<br>（１０分） | ・ 教科書の問題（p.19）を読み、本時の問題をとらえる。<br>・ どのような立体なのか考える。<br>・ 複合図形の模型を触り形を確かめる。 | ・ 直方体の求積公式がそのままでは使えないことを確かめさせる。<br>・ 点図を、角、辺、面をそれぞれ確かめさせ、頭の中でイメージさせる。<br>・ 記号シールを頂点に貼りながら、教科書の図でどこを | ・ 複合図形の模型<br>・ 記号シール |

|                |   |   |                      |
|----------------|---|---|----------------------|
|                |   | 表しているのか確かめられるようにする。   |                      |
| 展開 2<br>(20 分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体積の求め方を考える。</li> <li>・ 自分の考えを式で表し、説明する。</li> <li>・ 教科書の「友だちの考え」を読み取る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合図形の面積を求めた学習で、形を分けて考えたことを想起させる。</li> <li>・ 書いた式から、他の人が読んでも、どう考えたかわかるか確かめさせる。</li> <li>・ 実物模型を分離できるように作り、どのように考えたか触って確かめられるようにする。</li> </ul> | 複合図形の模型<br>(分離可能のもの) |
| まとめ<br>(10 分)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合図形の体積の求め方についてまとめる。</li> <li>・ 教科書 (p. 21) の練習問題を解く。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直方体や立方体に変形することで、体積公式が使えるよさをおさえる。</li> <li>・ まず自分で考え、それが前問の友だちの考えで、どれにあてはまるか考える。</li> </ul>   |                      |

## 「自立活動（造形）」学習指導案

|     |     |    |    |
|-----|-----|----|----|
| 指導者 | T 1 | 柘宜 | 志枝 |
|     | T 2 | 辰巳 | 純子 |
|     | T 3 | 辻岡 | 均  |
|     | T 4 | 松尾 | 賢喜 |

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第3時限（10:50～11:35）
2. 対象 小学部4年・6年〇組 児童4名
3. 場所 小学部3組教室
4. 単元名 「粘土でギュッと 手や指を使って粘土をいっぱい触る」
5. 単元の目標
  - ・積極的に素材に触れることができる。
  - ・いろいろな手や指の使い方ができる。
  - ・楽しみながら活動できる

### 6. 指導にあたって

#### （1）児童観

本学級の児童は小学部4・6年生の4名（男子2名、女子2名）である。4名全員が重複認定されており、知的障がいや肢体不自由を併せ有する。実態は様々であり、休み時間や授業においても、自発的に行動を起こしたり、外界の物に触ろうとしたり、友だちと関わりをもったりすることは少ない。そのため、どの児童も大人との関わりを通して活動することが多い。

日々の学校生活全般においては、個に応じた学習を積み重ねてきている。だが、環境の変化に敏感で気持ちが不安定になりやすく、最初の活動が分からず不安を感じたり、苦手な活動があったりすると、不安感や抵抗感を示し、落ち着いて取り組めない様子が見られる。運動や音楽活動など、全身を使ったり動きを伴ったりする活動は、楽しみながら取り組めることが多いが、特に机上で手や指を使う学習は抵抗感が強いときがある。また、日常生活の中でも積極的に手指を使うことが少なく、両手を使わず片手だけで作業をしようとすることも多い。

さまざまな課題のある児童たちであるが、最初は何をするのか分からず不安感は強くても、同じような活動を何度か繰り返すことで見通しをもち、落ち着いて学習できるようにはなっている。

## (2) 教材観

本単元では、油粘土を活用して手全体で押ししたり捏ねたりと、手に力を入れる活動を行う。児童たちは、普段から手に力を入れることが少なく、たとえば人差し指を使わずに作業したり、指先まで力を入れずに両手で雑巾を掴むだけだったり指への意識が少ないことが多い。そのため、両手および手指を使うよう声掛けしたり、様々な教材を活用したりと、学習を積み重ねてきている。そこで今回は、油粘土を活用することで、十分に力を入れたり、体重をかけたりすることができ、より意識的に手や指を使うことができると考えた。また、油粘土の形状を変えることで細かく指先を使うこともしやすく、指で丸めたりちぎったりするなど、指先を使うことも目的として行える。形状がないもの、たとえば土やボンドなどを触るのには抵抗を感じるときもあるので、手指を使う経験を積み重ねる必要性から、自由に形が変えられて、べたべたしすぎない感触の油粘土を使って、手や指を意識的に使う活動を行おうと考えた。

## (3) 指導観

指導に当たっては、手や指を少しでも意識して活動が行えるように、説明をした後、自由に油粘土の感触を感じたり、手全体で触ったりと、細かい指示をせず進めていく。徐々に慣れるため、個々が十分に素材に触れる時間をもつ。また、1学期に紙粘土を少し触ったことはあるが、油粘土は今年度はじめて使用するので、児童によっては抵抗を感じることも想定される。特に油粘土は固めなので、力を入れなければ形状が変わりにくいため、児童によっては少し小さめのものを使用したり細くしたりと、実態に合わせて学習をゆっくり進めていく。そして、単元の目標である指先も意識できるよう声掛けをしながら行っていく。個々の実態に応じてあるが、指先で粘土を押ししたりちぎったり、粘土板の上や手のひらを使って転がしながら丸めたりと、少しずつ手のひらや指を使った活動を入れていく。また、活動の様子をみながらできそうな児童には、使う指を指定したり、作るものや作り方を指定したりと課題をそれぞれに合わせて進めていく。これまでの造形学習では、穴あけパンチやホッチキスなど、いろいろな道具を活用した学習を行ってきたので、今回はヘラや卵のパックなどを使う経験も入れていきたい。

本単元は手や指を使うことを目的としているが、作業をしながら言葉を添えたり児童たちが楽しみながら発言できたりする機会も大事にしていきたい。また、普段から良い姿勢を気をつけているので、授業中の特に聞く姿勢も大事にしていく。

初めての活動や環境の変化に敏感なので、児童に無理なくその場の状況に応じながら授業を進めていく。

## 7. 評価規準

| 関心・意欲・態度      | 作業               | 表現   |
|---------------|------------------|--|
| ・積極的に活動しているか。 | ・楽しんでつくることができるか。 | ・作っているものを言葉で表現できるか。<br>・手や指、道具などを使って作ることができるか。 |

## 8. 指導計画（全2時）

| 時 | 学習内容          | 目標                           |
|---|---------------|------------------------------|
| 1 | 粘土をいっぱい触る（本時） | ・素材に触ることができる。<br>・手や指先を使う。   |
| 2 | 粘土で作品をつくる     | ・積極的に活動に参加できる。<br>・楽しみながら作る。 |

## 9. 本時

### （1）本時の目標

- ・抵抗なく素材に触ることができる。
- ・いろいろな手や指の使い方を知る。

### （2）本時の評価規準

| 関心・意欲・態度       | 作業               | 表現                |
|----------------|------------------|-------------------|
| ・抵抗感なく活動しているか。 | ・自ら素材に触ることができるか。 | ・いろいろな作り方ができているか。 |

### （3）児童の実態と本時の目標

| 児童名 | 児童の実態   | 本時の目標   |
|-----|---|---|
| A児  | 4年女子、弱視<br>手指全体を使って握ったりちぎったりすることができる。指先でつまんだりちぎったりすることは難しく、母指と他の指との対立動作は少ない。言葉で確認した後、物を持ち続けられるようになってきたが、机上学習では、触れたものはすぐに放り投げる | ・椅子に座って活動することができる。<br>・楽しみながら素材に触ることができる。<br>・作業していることを言葉に出すことができる。 |

|    |  |  |
|----|--|--|
|    | <p>ことが多い。また、投げることを楽しんでいる。嫌なことがあったり、期待していた活動ができなかったりすると怒りだし、気持ちの切り替えに時間がかかる。特に机上学習で多い。だが、声かけにより少しずつ落ち着くときもある。</p>   |  |
| B児 | <p>4年男子、全盲</p> <p>こだわりが強く、何か気になったり、言って欲しい言葉のフレーズがあったりすると、不安定になり気持ちの切り替えに時間がかかるときもある。だが、どんなことにも積極的に活動する。</p> <p>手指に関しては、母指と他四指での対立動作は可能だが、つまむときは指先よりも指の腹など広い面を使い、二指以上が多い。</p> <p>また、両手を使うように声掛けが必要である。自分で水筒からコップにお茶を入れたり、左手で棚を確認したりするなど、両手を使うことが増えてきている。</p> <p>土や畑の野菜などを抵抗なく触ることができる。</p> <p>作業のときは手に力が入れやすいように机の高さを変えている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に両手を使って活動する。</li> <li>・様々な指の使い方を知る。</li> <li>・作っているものが言葉で表現できる。</li> <li>・作ったものが発表できる。</li> </ul>       |
| C児 | <p>6年男子、光覚</p> <p>こだわりが強く、どの授業においても活動のはじめは不安を抱きやすい。また、最近何をするときもまず「いや」と抵抗する。だが、活動の見通しがもてると、落ち着いて学習することができる。手でいろいろ確認したり、指先を使ってつまんだりすることができる。だが、人差し指を使わないこ</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に油粘土を触ることができる。</li> <li>・いろいろな手や指の使い方を知る。</li> <li>・作っているものが言葉で表現できる。</li> <li>・作ったものが発表できる。</li> </ul> |

|    |   |   |
|----|---|---|
|    | とが多く、声掛けするなど意識させることが必要である。  |   |
| D児 | <p>6年女子、手動弁</p> <p>環境の変化に敏感で周囲の音をよく聞いている。特に寝不足のときは、にぎやかな声や音がすると、不機嫌になり耳をふさぐことが多い。手に関しては、力をいれて握ることができるが、ふとした瞬間に手を離してしまうこともある。また、指先でつまんでペットボトルの蓋をひっくり返したりドングリをつまんだりできるが、その場の環境に左右される。そのため、指導者が手を添えて活動することも多い。どの活動もコツを掴むと一人でできることが多くなってきた。</p> <p>A児が怒りだし何度か声を出すと、激しく怒って大泣きをし、その後授業に参加できなくなることがある。また、B児が大きな声で何度も同じ言葉を言うと、気持ちが不安定になる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の手で油粘土を触ったり握ったりすることができる。</li> <li>・指先でつまんでちぎることができる。</li> </ul> |

#### (4) 本時の展開

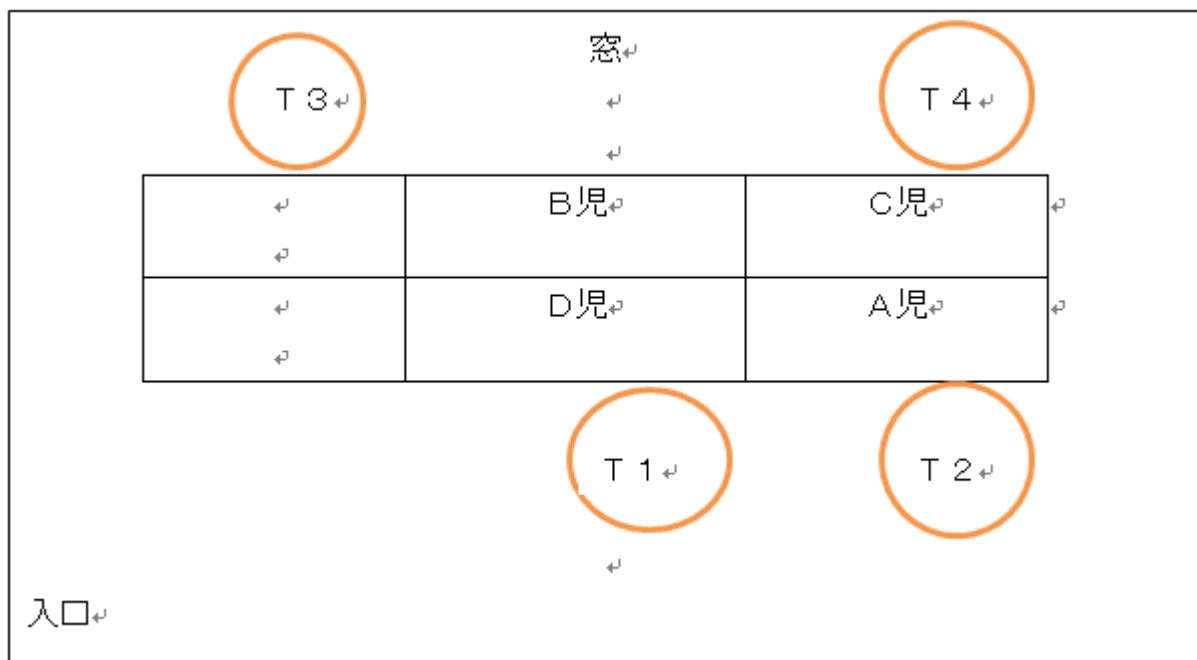
| 学習活動   | 留意点   | 準備物   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めの挨拶をする。</li> <li>・活動の説明を聞く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の始まりを意識するため姿勢を正すよう声掛けする。</li> <li>・当番に挨拶をするよう、声掛けをする。</li> <li>・説明が集中して聞けるように、話をした後に道具を配る。</li> <li>・様子を見ながら話を聞く姿勢が意識できるように声掛けする。</li> <li>・授業終わりの挨拶をするまで、手を洗わないこと</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土板</li> <li>・箱入り油粘土</li> </ul> |



|   |   |  |
|---|---|--|
|   | を説明する。  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・箱を開けて中身を出して確認する。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・箱から出しにくい場合は指導者と一緒に粘土を出す。</li> <li>・触って確認した後、何を使うのか聞くことで理解をさせる。</li> <li>・使うもの（素材）を声に出して言わせることで、意識づける。</li> </ul>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に叩いたり握ったりする。</li> <li>・指を使う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土が多すぎる場合は少し箱に戻すよう指示する。</li> <li>・粘土が固いので、実態に応じ少し細めのものや薄いものを使用する。</li> <li>・力が入りにくい児童には立って行うよう声掛けをする。</li> <li>・作業が難しい場合は指導者が手を添えて一緒に行う。</li> <li>・気持ちがのらない場合は歌に合わせてできることから行う。</li> <li>・いろいろな手や指の使い方ができるよう、ちぎったり、丸めたり、押ししたりと活動内容を指示する。</li> <li>・ちぎるときには使う指を指定する。</li> </ul> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具を使う。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘラを使って「トントン」など、声掛けすることで道具への関心を持たせる。</li> <li>・個々の活動の様子を見ながら、使う道具をいろいろ変えるよう声掛けする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘラ、スケッパー</li> <li>・卵パック</li> <li>・ラップの芯</li> <li>・型抜き</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に好きな食べ物や物を制作する。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えやすいように今朝や昨晚のメニューや好きな食べ物を聞いたり、指導者が考えたものを問いかけたりする。</li> <li>・個々の実態に応じ、叩いて作れるもの、ちぎってできるものなど、本時で頑張った活動を入れる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・製氷皿など</li> </ul>   |

|   |  |  |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・作ったものを発表する。</li> <li>・油粘土を箱に片づける。</li> <li>・次時の説明を聞く。</li> <li>・終わりの挨拶をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を作ったのか自分で発表させる。難しい場合は指導者と一緒に発表する。</li> <li>・他児の作品にも興味を持てるよう作品を触らせる。また、特徴的な部分も説明する。</li> <li>・粘土箱を確認させる。</li> <li>・片づけが難しい児童は一緒に行く。</li> <li>・片付いたら邪魔にならない位置へ置くように指示する。</li> <li>・背中を伸ばすように声掛けすることで聞く姿勢を意識させる。</li> <li>・ピアノなしで挨拶することを説明する。</li> </ul> |  |
|---|--|--|

(5) 配置図



# 「自立活動（歩行）」学習指導案

指導者 田中 良子

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第3時限（10：50～11：35）

2. 対象 小学部3年〇組 児童1名

3. 場所 小学部2組B教室

4. 単元名 「白杖の基本操作（タッチテクニック・スライド法）」

5. 単元の目標

- ・タッチテクニックで直進歩行ができるようになる。
- ・障害物に当たると、すぐに止まれる。
- ・スライド法で段差や溝を見つけることができる。

6. 本時の展開

- ・挨拶をしてから、前時にしたことを思い出す。
- ・白杖を触り、構造について再度確認する。
- ・タッチテクニックについて説明を聞く。
- ・白杖の持ち方を知る。
- ・白杖を振る。
- ・その場で、足踏みしながら白杖を振る。
- ・本時にしたことを確認して、挨拶。

# 「美術科」学習指導案

|     |     |       |
|-----|-----|-------|
| 指導者 | T 1 | 吉田 綾  |
|     | T 2 | 有吉 正記 |
|     | T 3 | 成元 雅子 |

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第2時限（9：50～10：40）
2. 対象 中学部1・2・3年 生徒4名
3. 場所 美術室
4. 題材名 「修学旅行・体験学習のしおりの表紙を作ろう」
5. 題材の目標
  - ・点字で模様や絵を表現できることに気づき、シールを組み合わせた表現ができる。
  - ・必要な文字を入れることを意識して制作することができる。
  - ・点字とシールを使った表現を楽しむ。

## 6. 指導にあたって

### （1）生徒観

このグループは、1年2名、2・3年が1名ずつ、全員が点字使用の生徒4名である。作業能力に個人差が大きく、基本的な道具（のり、はさみなど）の使用に支援を要する。1年生2名は、点字学習の初期段階であり、意欲にも差がある。また、2・3年においてもパーキンスブレイラー（点字を描くための道具、以下パーキンス）の使用に得手不得手があるなど生徒の実態は様々である。生徒同士の関わりを増やし、アイデアを膨らませ、相互に協力し合いながら制作を行う姿勢を育てるため、座席を他学年で隣同士にし、ペアで準備・片付けや制作に取り組ませる中で、少しずつお互いコミュニケーションを取り、影響し合って制作に取り組む姿勢がみられるようになってきている。話に夢中になってしまうこともあるが、適宜静かに取り組む時間を設けることで、集中して作業に取り組める時間が少しずつ延びてきている。

### （2）題材観

点字の絵と模様、丸いシール、必要な文字を組み合わせたデザインを考え、しおりの表紙を作成させる。このグループでは全員が点字使用の生徒であり、点字の教科書や本のなかに出てくる点字の絵や図・模様に触れたことはあるが、今回初めてその表現方法を学習する。文字としての点字を、絵・模様として改めてとらえることで、新たな発想や発見をしてほしいという思いからこの題材を設定した。教材として『点字器で描ける絵と模様』という本から、触っても描いてもわかりやすいものを選択して生徒に提示する。本の中で最初に出てくる、「畳目」は点字の1～6の点「め（め）」をひたすら打っていくといったシンプルなものでありながら、触って楽しい感覚がある。この他にも、触ってわかりやすく、かつ、点字の初期段階にある生徒にも取り組みやすいやさしい模様や絵がたくさんある。また、より高度な模様になると刺繍や織物のような印象を受けるほどに複雑なものまで様々であり、生徒の能力に合わせた表現方法の選択が可能であ

る。シールを使ったデザインは、昨年度、版画の額作りで取り組んでおり、個々に決めた規則に従ってシールを貼っていくという課題に主体的に取り組むことができた。点字とシールを組み合わせたデザインをさせることで、表現の幅を広げると共に、集中力に課題がある生徒に表現方法を選択させ、興味関心を促すことができる。本題材の学習で、友達の作品を主体的に鑑賞し、自分で作ったものを活用する喜びを感じさせたい。

### (3) 指導観

今回は、点字の模様と絵については比較的簡単で触察も容易なものを選択して例示する。点字を打つ道具は、点字盤の使用法を未修得の生徒がいることと、点字板とパーキンスでは、行間の詰まり方や作業工程が異なる場合があることから、基本的には全員パーキンスを使用させる。生徒の興味関心に合わせた参考作品を提示することで、やってみたい、どうやったらできるのだろうといった、好奇心・探究心を引き出したい。さらに、修学旅行・体験学習のしおりであることから、タイトルや行き先など必要な文字、点字の模様や絵、シールなど、様々な要素を組み合わせるといった条件のある中でデザインすることを経験させたい。また、修学旅行・体験学習のしおりの表紙を題材とすることで、制作への意欲、行事に対する主体性や期待感を高めさせたい。

## 7. 評価の観点

| 美術への<br>関心・意欲・態度  | 発想や構想の能力  | 創造的な技能   | 鑑賞の能力   |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>点字やシールで表現することに関心を持ち、主体的に表現しようとしている。</li> <li>授業の流れを理解し、見通しを持って活動ができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>デザインの条件を基に美しさを考えて表現の構想を練っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>表したいイメージを持ちながら創意工夫して表現している。</li> <li>目的に応じた道具の扱い方ができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞のマナーを守って鑑賞することができる。</li> <li>造形的なよさや表現の工夫に気づいている。</li> </ul> |

## 8. 指導計画（全6時間）

- ①点字でいろんな模様を描いてみよう
- ②                    "
- ③点字とシールでデザインしよう
- ④                    "
- ⑤修学旅行・体験学習のしおりの表紙を作ろう ※本時
- ⑥                    "

### 【本時までの経過】

- ①②点字でいろんな模様を描いてみよう

導入では行事の日程など、内容の簡単な確認と、それぞれ自分のしおりの表紙を作成させることを伝えた。しおり表紙の参考作品を鑑賞させ、何が描いてあるか伝えながら鑑賞させ

た。タイトル、日程、行き先、名前の4点を確認、発問しながら、文字を入れるということ意識できた。次に模様と絵の見本を触らせた。「@たこた（こたこた）」など教科書によく出てくる模様については、「知ってる！」という反応が見られた。参考作品、模様の見本の鑑賞では、「畳目」の模様を触って「家の畳のさわり心地と似てる」などの発言があった。阪神タイガースのロゴ、iPadの絵で特に興味深く鑑賞ができていた。制作では5マス3行の小さな範囲に見本作品を描く作業を行った。見本を触ってどの点、何の文字で構成されているのか発問をするうち、全員が口々に答えるなど、どうやって描かれているのか探ろうとする姿勢が見受けられた。全員が、支援のもと、集中して取り組み、疲れた様子があったが、用意した12種類の模様のうち、11種類を描くことができた。最後に来週の作業内容の確認を行い、パーキンス持参、点字にシールを組み合わせて表現するという作業内容を伝えて授業を終えた。パーキンスは重いため、階段の持ち運びに苦労する生徒がいた。今後も適宜支援を行い、安全確保をする必要がある。

### ③④点字とシールでデザインしよう

先週描いた模様を振り返り、本日は点字とシールを使って花を描いた。見本を確認しながら制作を進めることができる生徒もいたが、1年2名は点の周りや中央に花びらやめしべに見立てたシールを貼ることに支援が必要であった。シールは大小を用意し、どちらも使わせてみたが、自分で選ぶ場面では1年2名は大きいシール選んでおり、大きなシールの方が扱いやすい様子であった。制作の途中で、友達の作ったものを触る時間を短時間設け、「すごい！」「お花になってる」「違うシールを組み合わせてる」など友達の作品をじっくり鑑賞できている声が聞かれたと同時に、触り方にムラがある生徒もいた。全体的に集中力を要する作業のため、疲れが出てきている様子が見られたので、鑑賞後、少し休憩を入れた。後半15分は自由制作で、文字、模様を自由に描かせた。見本の絵と模様の中から、「畳目」「横縞」「こたこた」を描く生徒、「電車」の絵に挑戦する生徒もいた。改行後、まず空けをして必要な位置に合わせることは、全員支援が必要であった。

## 9. 本時

### (1) 本時の目標

- ・必要な文字を入れて仕上げるという条件を意識し、点字の模様や絵、シールを使ってデザインを考え、しおりの表紙を制作することができる。

### (2) 本時の評価の観点

| (あ) 美術への関心・意欲・態度  | (い) 発想や構想の能力  | (う) 創造的な技能  | (え) 鑑賞の能力  |
|---|---|---|--|
| ①参考作品・友達の作品に興味を持って鑑賞している。<br>②主体的に授業の準備・片付け・制作に取り組んでいる。 | ①参考作品を基に創作、アレンジするなど自分なりの表現を模索している。<br>②デザインの条件を意識して制作して | ①参考作品を基に、組み合わせるなど自分なりの表現を模索している。<br>②道具の扱い方を理解して扱うことが | ①マナーを守って鑑賞することができる。<br>②作品全体をじっくり鑑賞できる。<br>③友達の作品のよさ |

|                        |     |      |                             |
|------------------------|-----|------|-----------------------------|
| ③自発的に支援を求めて作業を進めようとする。 | いる。 | できる。 | や工夫に気がつき、表情が動いたり、言葉で表現している。 |
| ④聞いたり、考えたりして作業の見通しを持つ。 |     |      |                             |

(3) 本時の準備物

- ・点字で描く絵と模様の見本プリント
- ・前回までの生徒作品
- ・点字用紙
- ・シール各色
- ・プラスチック容器（シールを入れる）
- ・パーキンスブレイラー ※生徒持参。持ち運びの際は安全に留意させる。

(4) 生徒の実態と本時の目標

|   | 生徒の実態  | 本時の目標  |
|---|--|--|
| A | <p>中学部3年 女子 視力：右、左光覚 使用文字：点字<br/>併せ有する障がい：知的障がい（療育手帳B2）</p> <p>作業的な学習を好み、どんな課題にもとても意欲的に取り組むことができる。後輩に教えてあげるなど、先輩としての意識が高い。のり、はさみなどの基本的な道具の使い方が身に付いているが、細かな部分で支援が必要である。美術室内の環境把握ができつつあるが、道具の置き場所などについては支援が必要。筆記は点字盤を好み、自立して使用することができるがパーキンスの使用に少々苦手意識がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の模様の見本又は参考作品から選択、組み合わせ、楽しみながら主体的にデザインすることができる。</li> <li>・文字などのデザインの条件を満たし、しおりの表紙をデザインすることができる。</li> </ul>                  |
| B | <p>中学部2年 男子 視力：右0、左0 使用文字：点字<br/>併せ有する障がい：知的障がい（療育手帳B2）</p> <p>1年次と比較して精神面での成長が見られ、落ちついた態度で取り組める場面が多くなったが、私語が多くなることがある。基本的な道具の使い方が身に付いているが、細かな部分に支援が必要。美術室内の移動に支援が必要である。集中できたときの能力はすばらしいが、持続力に課題があり、すぐに姿勢が崩れやすい。筆記では、点字盤、パーキンスどちらも自立して使用することができる。</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・点字やシールで模様や絵を表現することを楽しむ。</li> <li>・必要な支援を求めながら、見本から選択してデザインを工夫することができる。</li> <li>・文字などの条件を満たしてしおりの表紙をデザインすることができる。</li> </ul> |

|   |   |  |
|---|---|--|
| C | <p>中学部1年 男子 視力：右0、左手動弁 使用文字：点字<br/>併せ有する障がい：知的障がい（療育手帳A）、脳原性上肢障がい1級、脳原性移動障がい1級</p> <p>積極的に発言するなど、どの課題にも意欲的に取り組むことができる。体幹・首が安定せず、ふらつくことがある。校内、美術室内の移動が未定着であるため、手引きが必要。基本的な道具の使い方が未定着である。基本的には点字の読み書きができるが、未定着な部分も多く、苦手意識がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・点字やシールで模様や絵を表現することを楽しむ。</li> <li>・点字の模様や絵を見本から選択して描くことができる。</li> <li>・文字などのデザインの条件を意識できる。</li> </ul> |
| D | <p>中学部1年 男子<br/>視力：右0 左指数弁 使用文字：点字<br/>併せ有する障がい：知的障がい（療育手帳A）</p> <p>意欲的に学習に取り組むことができるが、集中力に課題がある。疲れてくると投げやりになったりすることがある。美術室内の移動が少しずつ定着してきており、自席に一人で着席できる。基本的な道具の使い方に支援が必要。点字の初期指導中であり、意欲的に読み書きの学習に取り組んでいる。</p>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・点字やシールで模様や絵を表現することを楽しむ。</li> <li>・点字の模様や絵を見本から選択して描くことができる。</li> <li>・文字などのデザインの条件を意識できる。</li> </ul> |

(5) 本時の展開

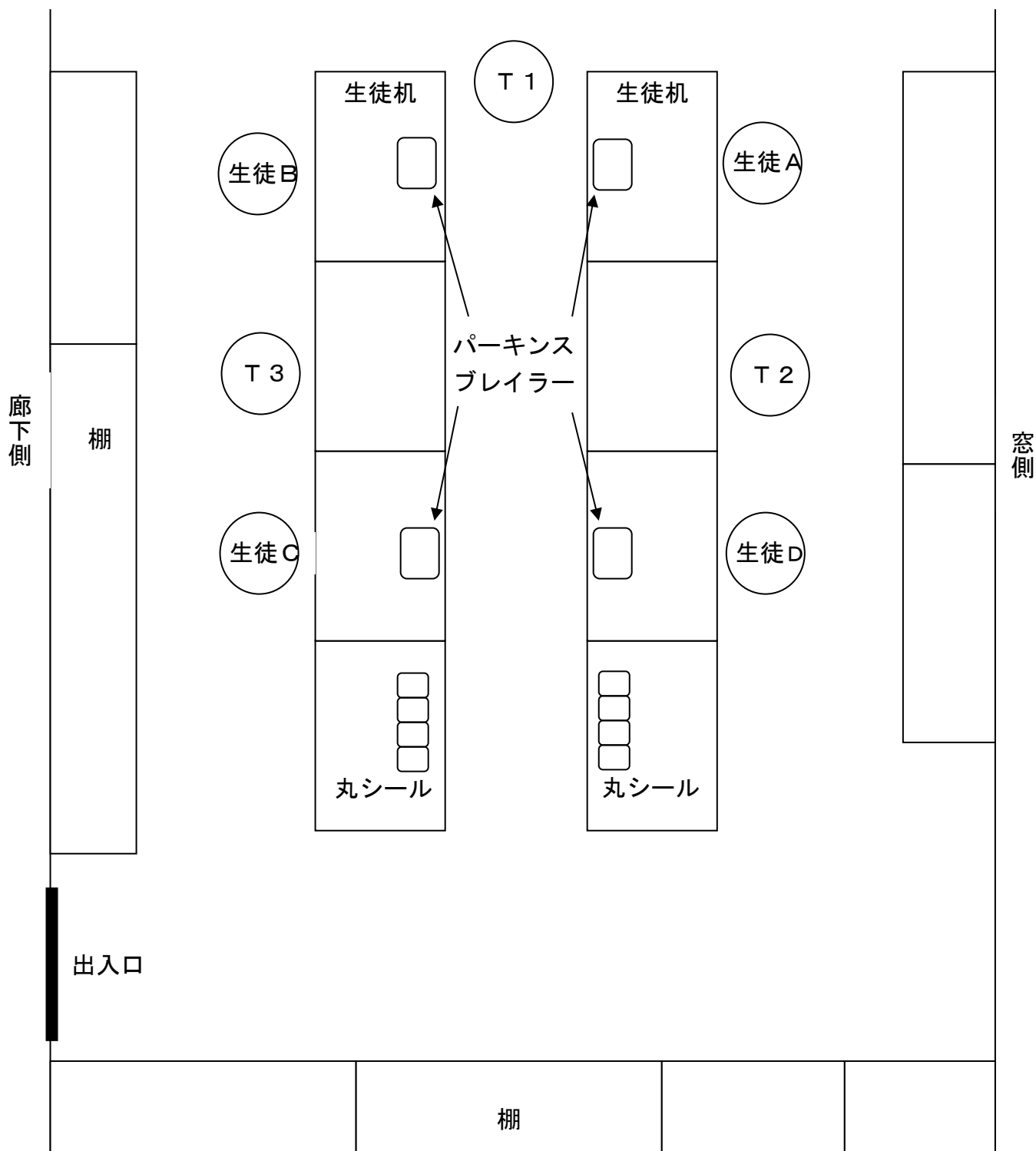
|             | 学習内容            | 生徒の活動   | 指導上の留意点   | 評価の観点                  |
|-------------|-----------------|---|---|------------------------|
| 導入<br>(10分) | 1. 準備           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーキンスを机の奥に置き、作業スペースを確保する。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーキンスを机の奥に置くように言葉かけを行う。</li> </ul>  | (あ) ②                  |
|             | 2. 挨拶           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が号令をかけ、始まりの挨拶をする。</li> </ul>                  |   | (あ) ②                  |
|             | 3. 前回の授業内容を振り返る | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回描いた模様を触る。</li> <li>・どんな作業をしたか振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発問により、前回の内容を確認する。</li> <li>・前回描いた点字用紙を返却する。</li> <li>・T2、T3は、生徒が体の正面で作品を鑑賞できるよう支援する。</li> <li>・T1は全体、T2は生徒D、T3は生徒Cについてそれぞれ特に指導を行う。</li> </ul> | (あ) ①②③<br>④<br>(え) ①② |
|             | 4. 本時の作業内容の確認   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業内容を聞く。</li> <li>・作業内容に見通しを持つ。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く姿勢を意識させる言葉かけをする。</li> <li>・発問により、しおりの表紙の</li> </ul>   | (あ) ④                  |



|                |                 |  |  |  |
|----------------|-----------------|--|--|--|
|                |                 |  | デザインに必要な条件を確認する。   |  |
| 制作・鑑賞<br>(35分) | 5. 道具、材料の準備     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーキンス、見本のプリントを作業しやすい位置に置く。</li> <li>・パーキンスに点字用紙をセットする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・机上の道具の置き場所を確認する。</li> <li>・参考作品を配付する。</li> <li>・点字用紙を配付する。</li> </ul>  | (あ) ②<br>(う) ②                         |
|                | 6. しおりの表紙の作成と鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・模様や絵、文字を入れてしおりの表紙をデザインする。</li> <li>・点字の模様や絵ができたなら、シールを取りに行き、模様や絵になるように貼る。</li> <li>・わからないところ、相談したいところは、自発的に質問しながら作業を行う。</li> <li>・途中の鑑賞の時間では、マナーを守って鑑賞する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が点字で模様や絵を打てるように支援を行い、スムーズに制作に入れるようにする。</li> <li>・シールを取りに行く際は一方通行で移動することを伝える。</li> <li>・生徒が置き場所からシールの色を選び取れるように支援をする。</li> <li>・シールが日時などの文字にかぶらないように注意させる。</li> <li>・早くできた場合は、裏表紙に取りかからせる。</li> <li>・姿勢が崩れてきた時は、言葉がけの支援を行う。</li> <li>・友達の商品からアイデアを得たり、集中力を持続させるため、途中でお互いの作品を鑑賞し合う時間を短時間設ける。鑑賞の時間をとる前にあと何分後などと予告し、見通しを持たせる。</li> </ul> | (あ) ①②③<br>(い) ①②<br>(う) ①②<br>(え) ①②③ |
| まとめ<br>(5分)    | 7. 次の時間の作業内容の確認 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時にどこまでできたか、次の時間にどこから取り組むかを確認する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の到達段階、次の時間の作業内容を生徒が意識できるよう、言語化を促す支援を行う。</li> </ul>   | (あ) ④                                  |

(6) 座席配置図

↑水場



# 「数学科」学習指導案

指導者 岡野 洋志

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第5時限（13：30～14：20）
2. 対象 中学部2・3年生徒2名
3. 場所 中学部2・3年教室
4. 単元名 「直方体や立方体の体積」
5. 単元の目標
  - ・立体の体積について単位と測定の意味を理解し、体積を計算で求めることができる。

## 6. 指導にあたって

### （1）生徒観

本授業は、中学2年生男子1名、中学3年生女子1名の計2名で構成されていて、両生徒とも全盲であり、下学年対応を行っている。授業に対する取り組みは積極的で、自らの考えを発表し、意欲的に質問する姿が見られる。小学4年生までの内容を学習し終わっていて、前年度では小学5年生の内容について学習してきた。既習の面積の問題はよく理解していて、長方形や正方形、平行四辺形などの面積の公式を用いて求めることができた。今年度の2学期には円について学習し、より複雑な面積の公式について考えることができた。しかし、面積の意味を「広さ」と表現できる一方で、体積の意味を自分のことばで表現することはできなかった。すでに体積の学習に取り組んだ生徒もいるが、体積を求める公式としての理解にとどまっている。

### （2）単元観

立体物は、身の回りに数多くあり、どれもが違う大きさをしている。それらを触った感覚で大小を決めるのではなく、正確に測定する方法が存在し、測定した体積を比較することの楽しさを学んでほしいと思い、この単元を設定した。本単元は、小学校算数科の領域「量と測定」と関連していて、身の回りにある2つのもの比べるために、単位を用いて数値化し測定することを目標としている。本題材では、積み木を使って2つの立体の体積を比べ、測定する意味を学習する。また、 $1\text{cm}^3$ の立方体の粘土を作る活動から体積を比べる基準になる単位とその大きさのおよその感覚を学習する。また、積み木の数を数えて体積を求める活動から、数えずに求めるにはどうすればよいか考え、直方体の体積の公式を導く。加えて、立方体では縦、横、高さが等しいことから公式を導くようにする。

### (3) 指導観

生徒観をふまえ、実際に触って操作ができる教材を使用する。積み木は前年度以前から図形を学習するときに使用していて、生徒にとって慣れ親しんだ教具である。また、授業開始時に本時の目標を確認し、例題終了後にまとめを発表、まとめの問題に取り組むことで、授業の流れを理解しやすいように授業を展開する。本時は「直方体や立方体の体積の公式」の導入である。触っただけでは単純に体積を比較することができない直方体と立方体を用意し、正確に体積を測定する方法を考えることができるよう指導する。工作用紙でできた直方体や立方体の中に同じ大きさの立方体の積み木を敷き詰めることで、何個分になるか調べる活動や、どちらがより多く積み木を使っているか比べる活動を通して、直方体や立方体の大きさは、同じ大きさの立方体を基準にし、その個数で数値化できることを指導する。

### 7. 評価の観点

| A 数学への関心・意欲・態度   | B 数学的な考え方                                 | C 数量や図形についての技能  | D 数量や図形についての知識・理解  |
|--|---|---|--|
| ①既習の長さや面積の学習と関連づけながら、体積の比べ方を考えようとしている。<br>②ものの体積に関心をもち、それらの体積の求め方を考えようとしている。 | ①長さや面積と同じように、単位の大きさを決め、数値化して体積を比べようとしている。 | ①ブロックを敷き詰め、数を正確に数えることができる。<br>②直方体、立方体の体積を、公式を使って求めることができる。 | ①直方体や立方体の体積は、積み木を単位としてその何個分で表すことを理解している。<br>② $1\text{ cm}^3$ のおよその大きさの感覚を身につけている。<br>③直方体や立方体の体積は、 $1\text{ cm}^3$ を単位としてその何個分で表すことを理解している。 |

### 8. 指導計画（全5時間）

| 次  | 時       | 学習内容   | 評価規準 |   |   |   |
|----|---------|--|------|---|---|---|
|    |         |  | A    | B | C | D |
| 第一 | 第一時【本時】 | ・直方体と立方体の大きさの比べ方を考える。<br>・立方体の積み木の数で直方体と立方体の大き | ①    | ① | ① | ① |

|     |     |  |   |   |   |   |
|-----|-----|--|---|---|---|---|
|     |     | さを表す。  |   |   |   |   |
|     | 第二時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>1\text{cm}^3</math>のおよその大きさを、ねんどを触って確かめる。</li> <li>・ 用語「体積」、体積の単位「立方センチメートル」を知る。</li> <li>・ <math>5\text{cm}^3</math>と<math>8\text{cm}^3</math>の大きさを比べる。</li> </ul> | ① | ① |   | ② |
| 第二次 | 第三時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦4cm、横6cm、高さ5cmの直方体と1辺5cmの立方体の体積を計算で求める方法を考える。</li> <li>・ それぞれ<math>1\text{cm}^3</math>の立方体の何個分か調べる。</li> </ul>   | ② | ① | ② | ③ |
|     | 第四時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直方体、立方体の体積を求める公式をまとめる。</li> <li>・ 直方体や立方体の体積を、公式を使って求め</li> </ul>   |   | ① | ② | ③ |
| 第三次 | 第五時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項の確認プリントに取り組む。</li> </ul>  | ② |   | ② |   |

## 9. 本時

### (1) 本時の目標

立方体の積み木の数で直方体と立方体の大きさを比べる。

### (2) 本時の評価の観点

【関】 既習の長さや面積の学習と関連づけながら、体積の比べ方を考えようとしている。

【考】 長さや面積と同じように、単位の大きさを決め、数値化して体積を比べることを考えようとしている。

【技】 ブロックを敷き詰め、数を正確に数えることができる。

【知】直方体や立方体の体積は、積み木を単位としてその何個分で表すことができる。

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・ 数学用ファイル ※生徒持参
- ・ パーキンスブレイラー ※生徒持参
- ・ 点字用紙 ※生徒持参
- ・ 本時の目標、例題、まとめの問題が書かれた学習プリント 1 枚
- ・ 工作用紙で作った直方体「ア」(縦 3 個分 横 4 個分 高さ 2 個分) 24 個
- ・ 工作用紙で作った立方体「イ」(縦 3 個分 横 3 個分 高さ 3 個分) 27 個
- ・ 工作用紙で作った直方体「ウ」(縦 2 個分 横 4 個分 高さ 2 個分) 16 個
- ・ 工作用紙で作った直方体「エ」(縦 2 個分 横 4 個分 高さ 3 個分) 24 個
- ・ 工作用紙で作った直方体「オ」(縦 4 個分 横 5 個分 高さ 1 個分) 20 個
- ・ 工作用紙で作った直方体「カ」(縦 2 個分 横 2 個分 高さ 2 個分) 8 個
- ・ 立方体の積み木とそれの入ったかご 1 個
- ・ 数え終わった積み木を入れておくかご「ア」「イ」と他 1 個 計 3 個
- ・ 宿題プリント 1 枚

(4) 生徒の実態と本時の目標

|   | 児童生徒の実態   | 本時の目標  | 評価規準  |
|---|---|--|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学 2 年生 男子</li> <li>・ 全盲</li> <li>・ 点字使用</li> <li>・ 知的障がい</li> <li>・ どこに何をおいたか忘れやすく、教具が多くなると混乱することがある。</li> <li>・ 公式を使って面積を求めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積み木を直方体や立方体に隙間なく敷き詰めることができる。</li> <li>・ 「ア」と「イ」のどちらが大きいか予想し、その理由を考えることができる。</li> <li>・ それぞれの積み木の数から、「ア」と「イ」の大きさを比べることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積み木を最後まで敷き詰めることができる。【技】</li> <li>・ 「ア」と「イ」のどちらが大きいか予想し、その理由を発表することができる。</li> <li>【関】</li> <li>・ それぞれの積み木の数から、「ア」と「イ」の大きさを比べ、その答えを発表することができる。【考】</li> </ul> |
| B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学 3 年生 女子</li> <li>・ 全盲</li> <li>・ 点字使用</li> <li>・ 知的障がい</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積み木を直方体や立方体に隙間なく敷き詰めることができる。</li> <li>・ 「ア」と「イ」のどちらが</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積み木を最後まで敷き詰めることができる。【技】</li> <li>・ 「ア」と「イ」のどちらが大きいか予想し、その理由</li> </ul>   |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・そろばんでの加減乗除の計算が身に付いている。</li> <li>・公式を使って面積を求めることができる。</li> <li>・前学年で、体積の公式について学習している。</li> </ul> | <p>大きいか予想し、その理由を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの積み木の数から、「ア」と「イ」の大きさを比べることができる。</li> </ul> | <p>を発表することができる。</p> <p>【関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの積み木の数から、「ア」と「イ」の大きさを比べ、その差を発表することができる。【考】</li> </ul> |
|---|---|--|

(5) 本時の展開

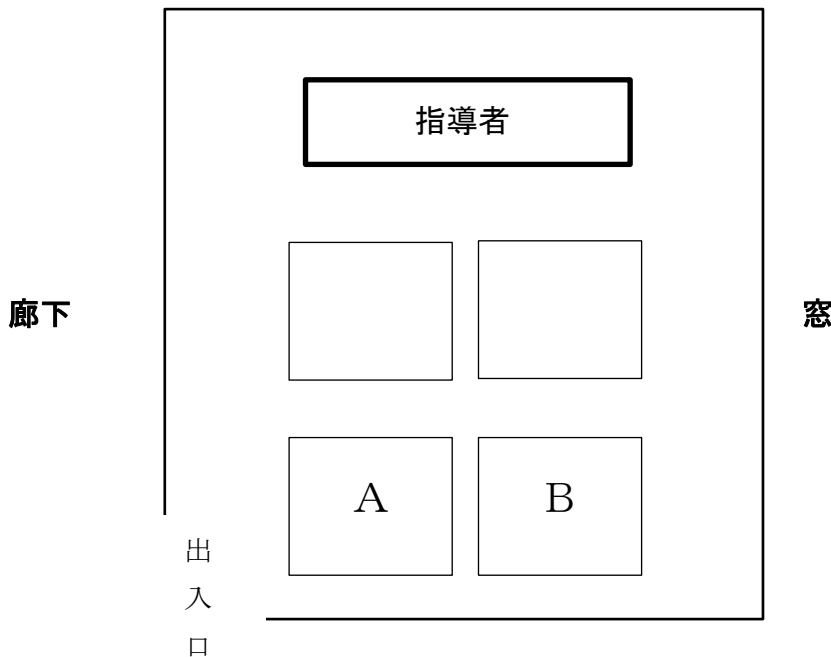
| 時間        | 学習内容・学習活動  | 指導上の留意点及び支援のてだて等  | 評価規準   |
|-----------|--|---|--|
| 10分<br>導入 | 1 始めの挨拶をする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒持参物が生徒机上の配置図においてあるか、それ以外の物がでていないか確認する。</li> </ul>   |  |
|           | 2 本時の目標、流れを確認する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントを配付する。</li> </ul>   |  |
|           | <p>目標 「ア」と「イ」、どちらの立体が大きいか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントに書かれた本時の目標を音読する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れを口頭で説明する。</li> <li>・直方体「ア」、立方体「イ」を配付する。</li> </ul>   |  |
|           | <p>例題1 「ア」と「イ」、どちらが大きいか、正確に比べるにはどうすれば よいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ア」と「イ」を触って、大きさを比べる。</li> <li>・比べる方法を点字用紙に書く。</li> <li>・積み木を使って、大きさを比べる方法を考える。</li> </ul> | <p>【予想される意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重ね合わせて長さ、面積を比べる。</li> <li>・重さを比べる。</li> <li>・積み木を提示し、どう使えば比べられるか質問する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ア」と「イ」のどちらが大きいか予想し、その理由を発表することができる。</li> </ul> <p>【関】</p> |

|                    |  |   |  |
|--------------------|--|---|--|
| 20分<br>展<br>開<br>1 | 2 「ア」と「イ」、それぞれに積み木を敷き詰めよう。   |   |  |
|                    | 3 直方体と立方体の大きさを調べる。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積み木を使って、正確に比べることを説明する。</li> <li>・積み木の入ったかごを配付する。</li> <li>・敷き詰められていない場合、隙間があることを、言葉かけする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積み木を最後まで敷き詰めることができる。【技】</li> </ul>                         |
|                    | 3 「ア」と「イ」、それぞれ積み木は何個分だったか数えよう。   |   |  |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷き詰めた積み木をかごに入れ、数えながらかごから出す。</li> <li>・結果を点字用紙に書く。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・かごにそれぞれ、「ア」「イ」の点字シールが貼ってあることを伝え、対応するかごに積み木を入れるよう言葉かけする。</li> <li>・全員で声を出して一緒に数えるよう指示する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの積み木を、対応するかごに分け、正確に数えることができる。【技】</li> </ul>            |
|                    | 4 「ア」と「イ」、積み木を多く使っているのはどちらか答えよう。   |   |  |
|                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ア」と「イ」の大きさを積み木の数で比べる。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷き詰めた積み木の数を比べることで、「ア」と「イ」の大きさを正確に比べることができたことを確認する。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの積み木の数から、「ア」と「イ」の大きさを比べ、その答えを発表することができる。【考】</li> </ul> |
| 20分<br>ま<br>と<br>め | 4 本時のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめを点字用紙に書く。</li> <li>・本時のまとめを発表し、他生徒の意見を聞く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめを書くのが難しい場合、本時で何を使ったのか、何を比べたのか言葉かけをする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体や立方体の体積は、積み木を単位として表すことを、発表することができる。【知】</li> </ul>       |



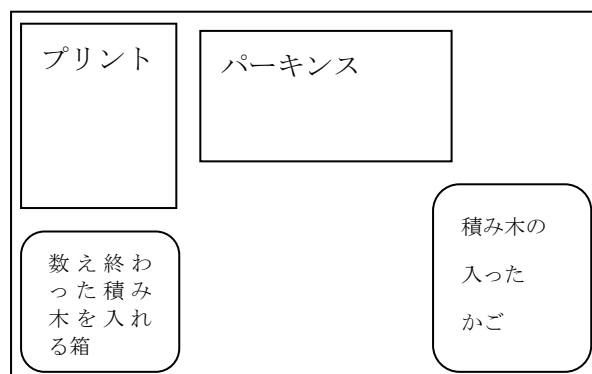
|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>まとめ</p>   | <p>直方体や立方体の大きさは、積み木を何個分使っているかで、比べることができる。</p>                              |   |
| <p>まとめの問題</p>  | <p>①教卓にある直方体や立方体で一番大きいと思うものを選びなさい。<br/>②選んだ直方体や立方体に積み木を敷き詰め、何個分か調べなさい。</p> |   |
| <p>・「ウ」～「カ」の中で大きいものを予想し、理由を発表する。<br/>・「ウ」～「カ」を積み木の数で調べる。</p> <p>5 終わりの挨拶をする。</p> | <p>・敷き詰められていない場合、隙間があることを、言葉かけする。</p> <p>・本時の宿題を配付する。</p>                  | <p>・どの立体が大きいか予想し、その理由を発表することができる。【関】<br/>・数値化して体積を比べようとしている。【考】</p> |

(6) 座席配置図



生徒机上配置図

【中2男子】



# 「理科」学習指導案

指導者 熊谷 伸紀

1. 日時 平成30年〇月〇日（〇）第5時限（13：30～14：20）
2. 対象 中学部1年 生徒1名
3. 場所 美術室
4. 単元名 「火をふく大地」
5. 単元の目標
  - ・火山の活動の様子や身近な岩石、地層、地形などの観察を通して、それらの関連性を理解する。さらに、火山の形、火山噴出物の形状、火成岩の組織のちがいを、マグマの性質や成因と関連づけて説明できるような科学的な見方・考え方を身につける。

## 6. 指導にあたって

### （1）生徒観

準ずる課程のクラスに在籍する中学1年男子弱視生徒で拡大教科書を使用している。2学期になり、少しずつ中学部の勉強にも慣れてきている。理科の授業に対する取り組みは少し消極的であるが、自らの考えを発表したりする姿が見られるようになった。理科に興味はあるようだが、なかなか積極的には取り組めていない部分がある。実験は好きで意欲的に取り組んでいる。結果や考察をまとめることもできるようになってきている。小学部では6年の「土地のつくりと変化」で、火山の噴火や地震によって土地が変化することも学習している。実験を行い自分の手と目で確認することで具体的なイメージを持ち、科学的な考えにつなげていきたい。ひとつひとつ理論的に丁寧に指導していきたい。

### （2）教材観

小学部の学習経験をもとに、火山活動のようすと岩石、地震活動のゆれの伝わり方と大きさ、大地の過去を読みとれる地層などを学習する。観察・実験を通して、そこで生起する地学的事象に関心をもたせ、それらの事象は長大な時間と広大な空間の中でたがいに関連をもちながら、絶えず変化してきたものであることに気づかせる。また、「大地は絶えず変動する」という科学的な見方・考え方を育成するようにしたい。

### （3）指導観

可能な限り身近にある火山のようすや岩石などの地質現象に目を向けさせ、大地のつくりとその動きへの関心を高めさせる。観察結果やモデル実験など具体的な体験を通して科学的に思考・

表現する場を多く設ける。生徒観をふまえ、図や写真などから、比較・考察することが苦手なので、今回は石膏を使うことによって、実際にマグマをイメージしやすくする。自分で触り実験を行うことで、認識を深め結果にも興味と考えを持てるようにしたい。目で見て、手で触ることから、石膏の形の違い、固さの違いから、火山の形の違いとマグマのねばりけとの関連性を気づけるように導き、基礎的基本的な知識を身に付け、実験結果から考察できる技術を習得させたい。

## 7. 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 科学的な思考・表現   | 観察・実験の技能  | 知識・理解   |
|--|---|---|---|
| <p>① 火山・噴火のようすに興味をもって進んで関わっている。</p> <p>② 火山・噴火の事物・現象を科学的に探求しようとしている。</p> <p>③ 火山・噴火の事象を日常生活とのかかわりでみよようとしている。</p> | <p>① 火山・噴火に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察・実験を行っている。</p> <p>② 火山の形や活動の様子及び石膏のモデル実験を関連づけて、一般化することができる。</p> <p>③ マグマの性質と関連づけることができる。</p> <p>④ 火山岩と深成岩の組織の違いと成因とを関連づけることができる。</p> | <p>① 火山活動と火成岩に関する観察、実験の基本操作を習得できる。</p> <p>② 観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。</p> | <p>① 火山の形や活動の様子及び火山噴出物とマグマの性質との関連について基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>② 火成岩と深成岩の組織の違いと成因との関連について基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。</p> |

8. 指導計画（全7時間）

| 次   | 時         | 学習内容  | 評価規準   |        |        |       |
|-----|-----------|---|--------|--------|--------|-------|
|     |           |   | 関心・意   | 思考・表現  | 技能     | 知識・理解 |
| 第一次 | 第一時       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山の噴火がマグマの噴出による現象であることを知る。</li> <li>・火山の分布や生活との関連について考える。</li> <li>・火山が分布する地域は限られていることについて考える。</li> </ul>   | ①      | ①      |        |       |
|     | 第二時<br>本時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マグマの発泡と火山の噴火について知る。</li> <li>・火山の形や噴火のしかたに違いがあることを知り、原因を考える。</li> <li>・石膏を用いた実験でマグマのねばりけの違いによることを知りまとめる。</li> <li>・溶岩の色と、噴火の様子とはマグマのねばりけに関係があることを知る。</li> </ul> | ②      | ①<br>② | ①<br>② | ①     |
| 第二次 | 第三時       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山噴出物について知る。</li> <li>・火山灰がどのようなものでできているか考える。</li> </ul>  | ②      | ①      |        | ①     |
|     | 第四時       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山灰が風に乗って広範囲に広がり、ほぼ同時に降り積もることを知る。</li> </ul>  | ①<br>② | ①      | ①      | ①     |

|     |     |   |   |        |   |   |
|-----|-----|---|---|--------|---|---|
|     |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>火山灰の性質の違いから、火山灰層が同じ火山の噴火かどうかの判断材料になることを理解する。</li> </ul>  |   |        |   |   |
| 第三次 | 第五時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>火成岩について知る。</li> <li>火山岩と深成岩の違いを理解する。</li> <li>マグマの冷え方と火成岩のつくりの関係を理解する。</li> </ul>                      | ② | ②<br>③ | ① | ② |
|     | 第六時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>火山岩、深成岩のつくりについて、特徴とでき方を関連づけてまとめる。</li> <li>岩石にふくまれる鉱物の割合によって、分類されることを理解する。</li> </ul>                  | ② | ④      |   | ② |
| 第四次 | 第七時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>火山活動とさまざまな災害について知る。</li> <li>火山活動がもたらす災害にどう対処するか考える。</li> <li>過去の火山活動についてどのような記録が残っているか調べる。</li> </ul> | ③ |        |   |   |

## 9. 本時

### (1) 本時の目標

- 火山の形、マグマのねばりけに関係があることを理解する。
- 火山の噴火がマグマの噴出による現象であることを知る。教科書の図・写真から火山の形のちがいに気づかせる。そのちがいを考察する。石膏を使った実験で、マグマのねばりけと石膏のねばりけを関連づけ、マグマの性質と火山の形に関連性があることを理解していく。実験の結果と、教科書の火山の写真やモデル図をみて、火山の形とマグマのねばりけについ

て考察する。

(2) 本時の評価の観点

【関心・意欲・態度】マグマの粘性の違いにより生じる現象を、石膏のモデル実験で確認しようとしている。

【科学的な思考・表現】実際の火山の形と、石膏のモデル実験を関連づけて、一般化することができる。

【観察・実験の技能】石膏の粘性の違いによる結果の相違に気づくことができる。

【知識・理解】実際の火山の形から、噴出した溶岩の粘性が類推できることを理解している。

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・実験まとめプリント3枚
- ・実験 PPシート半透明 2枚
- しぼり袋 2袋
- 石膏 2袋分

(4) 生徒の実態と本時の目標

|   | 児童生徒の実態  | 本時の目標  | 評価規準   |
|---|--|--|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 中学1年生 男子</li><li>・ 弱視</li><li>・ 拡大教科書使用</li><li>・ 筆記が苦手</li><li>・ ものの整理が苦手、ノートや鉛筆、消しゴムなど毎回確認が必要。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ プリントを綺麗に書くことができる。</li><li>・ 実験の手順を覚え、行うことができる。</li><li>・ 実験結果をプリントにまとめることができる。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 関心を持ってプリント記入ができる。</li><li>・ 実験の操作を覚え、計画的に行うことができる。</li><li>・ 火山の形を石膏のモデル実験と関連づけて一般化することができる。理解できる。</li></ul> |

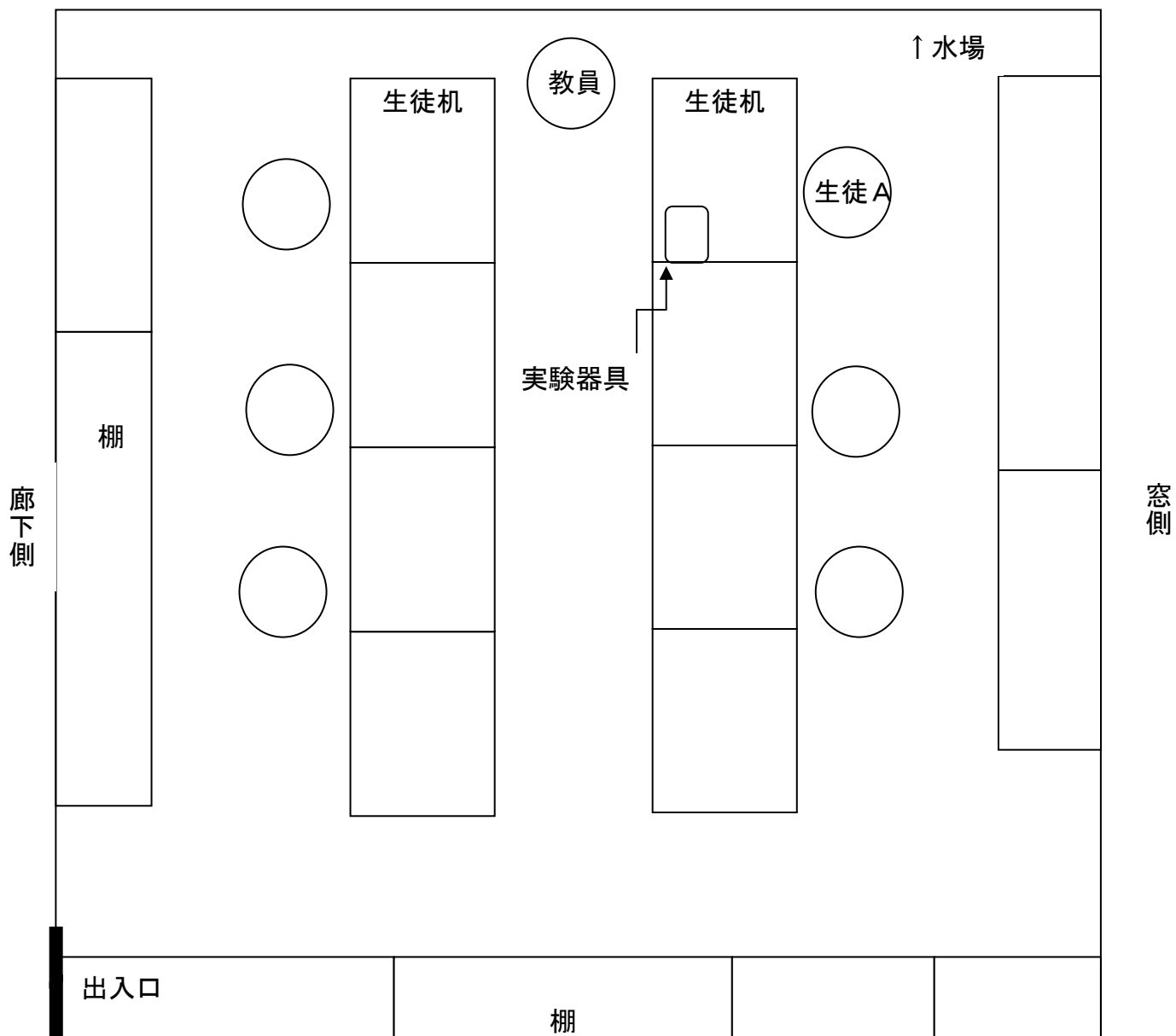
(5) 本時の展開

| 時間                               | 学習内容・学習活動   | 指導上の留意点及び支援のてだて等   | 評価規準  |
|----------------------------------|---|--|---|
| 10分<br>導<br>入                    | <p>1 始めの挨拶をする。<br/>前時の学習内容を確認する</p> <p>2 本時の目標、流れを確認する。</p> <p>・いろいろな火山があることを確認する。</p> <p>・火山は何でできているか、形には何と関係があるか考える。</p>                          | <p>・教科書、ファイルなどを確認する。</p> <p>・プリントをみながら前時の確認を行う。</p> <p>・教科書の写真などから、導く。特に、雲仙普賢岳、浅間山、伊豆大島の形のちがいに注目させる。</p> <p>・マグマについて考えさせる。</p> | <p>・関係に注目して考えられている【関】</p>                               |
| <p>目標 実験でマグマのねばりけと火山の形を調べよう。</p> |   |  |   |
| 30分<br>展<br>開                    | <p>3 石膏をマグマにみたてて火山の形を再現する</p> <p>実験 ねばりけの強い石膏と弱い石膏を用意して、穴のあけた板に、袋に入れた石膏を押し出して、形の違いをみる。</p> <p>・実験で使用する道具を確認する。手順の説明をする。</p> <p>・2種類の石膏の結果を予測する。</p> | <p>・実験ゴーグルの着用</p> <p>・1回目、2回目で使う道具をそろえてまとめて置くように説明する。</p> <p>・プリントに記入</p>  | <p>・道具を把握し、まとめられる。【技】</p> <p>・ねばりけの性質に気づくことができる。【思】</p> |



|  |  |  |   |  |  |
|--|--|--|---|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねばりけの弱い石膏の袋を板の穴に入れて押し出す。</li> <li>・次に、ねばりけの強い石膏の袋を板の穴に入れて押し出す。</li> <li>・固まった石膏のモデルの結果からその違いを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果とその違いに注意しながらプリントに記入。</li> <li>・デジタルカメラで実験結果を撮影。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果を予測できる。【思】</li> <li>・目的の実験を行える。【技】</li> <li>・結果から違いに気づき、火山の形との関連を理解できる。【知】</li> </ul> |  |  |
| 10分<br>ま<br>と<br>め   | 4 本時のまとめをする。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと、疑問が残れば書き残して今後の学習につなげていく。</li> </ul>                   |   |  |  |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="284 1160 507 1290">まとめ</td> <td data-bbox="515 1160 1406 1290"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルをみて、自分で図を書き、わかったこと自分の考えをまとめる。</li> <li>・まとめた内容を発表する。</li> </ul> </td> </tr> </table> |  | まとめ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルをみて、自分で図を書き、わかったこと自分の考えをまとめる。</li> <li>・まとめた内容を発表する。</li> </ul>                      |  |  |
| まとめ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルをみて、自分で図を書き、わかったこと自分の考えをまとめる。</li> <li>・まとめた内容を発表する。</li> </ul>   |  |   |  |  |

(6) 座席配置図



## 「自立活動（作業）」学習指導案

|     |     |    |     |
|-----|-----|----|-----|
| 指導者 | T 1 | 中屋 | 菜穂子 |
|     | T 2 | 岡野 | 洋志  |
|     | T 3 | 仙田 | 和枝  |
|     | T 4 | 川勝 | 純   |
|     | T 5 | 吉田 | 綾   |

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第5・6時限（13：30～15：00）
2. 対象 中学部重複学級 生徒5名
3. 場所 中学部A組教室及び中学部畑
4. 単元名 「畑に行こう」
5. 単元の目標
  - ・ 農作業・袋詰めの手仕事を体験・継続することによって作業能力の向上を図る。
  - ・ 友だちと共に仕事をすることによって一体感を味わい、協調性・社会性の向上を図る。
6. 生徒の実態  
弱視1名、全盲4名。重度の知的障がい・自閉傾向・肢体不自由を併せ持つ、重複学級の生徒5名の学習グループ。
7. 評価の観点
  - ・ 楽しんで歌い、集団で楽しく畑へ移動する。
  - ・ 収穫を喜ぶ。
  - ・ 作物の枝や葉、収穫物を触ることができる。
  - ・ 指示に従って手を動かすことができる。
  - ・ 袋詰めのを完成を喜ぶ。

## 8. 本時の展開

- ・ 教室で靴の履き替え等の準備ができたなら挨拶をし、本時の説明を聞く。
- ・ 「ちいさな畑」の歌を楽しく歌い、農作業への期待感を高める。
- ・ 集団で畑へ移動する。友だちと繋がって楽しく移動する。
- ・ 収穫・水遣り・種いも植えなどの農作業をする。
- ・ 集団で教室へ移動する。友だちと繋がって楽しく移動する。
- ・ 教室内で乾燥ハーブの袋詰め作業をする。
- ・ 次回授業の予告を聞き、挨拶をする。

# 「地理歴史科 世界史B」 学習指導案

指導者 辰己 祐幸

1. 日時 平成30年〇月〇日（〇）第3時限（10：50～11：40）

3. 対象 高等部本科普通科第2学年A類型 生徒1名

2. 場所 高等部普通科2A教室

4. 単元名 第3部 近世 第10章 大交流・大交易の時代

2. 東方航路の開拓と大西洋世界の出現

「新世界史B 改訂版（山川出版社）」

（高等学校学習指導要領 地理歴史編 日本史B

（4）諸地域世界の結合と変容 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界より）

5. 単元の目標

ア 大航海時代の背景（十字軍やルネサンス、レコンキスタ、香辛料貿易、オスマン朝の存在など）を理解させる。

イ ヴァスコ＝ダ＝ガマの航路（なぜアフリカ南端を經由してインドを目指したのか）やコロンブスの航路（なぜ大西洋を横断してインドを目指したのか）を地図上で確認させ、当時の世界情勢やその航路に至った経緯を理解させる。

ウ ポルトガルのアジア進出、スペインのアメリカ征服（先住民の激減）にともなう「大西洋世界」の出現を理解させる。また新大陸での発見（ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、トマト、トウガラシ、カカオなど）や大西洋三角貿易（アフリカ黒人の奴隷貿易）が現在の世界に大きな影響を与えていることを意識させる。

エ 大西洋世界の出現と世界の一体化（マゼランの航路とスペイン・ポルトガルの東南アジア進出）が日本の戦国時代に与えた影響（鉄砲・キリスト教伝来、南蛮貿易）を意識させる。

## 6. 指導にあたって

### (1) 生徒観

|     |  |
|-----|--|
| 生徒A | 男子弱視生徒（矯正視力 右0.09 左0.01）。<br>使用文字：墨字18Pゴシック体 |
|-----|--|

社会科学習全般（歴史だけでなく、地理・公民分野を含む）に対して苦手意識を持っている。入学当初に実施した実力テスト（中学校社会歴史の基礎的内容）の結果は、17点であり、中学校段階での既習事項についての知識や理解はほとんど定着していなかった。

学習に対する意欲は低く、漢字の苦手な本人が事前に確認できるようプリントを紙とデータで事前に配付しているが、確認することはほとんどないのが現状である。世界史Bで学習する漢字・カタカナの重要語句はなかなか記憶できず、その語句の内容もなかなか理解ができない。プリント末の課題についても提出が遅れることが多い。抽象的な思考が難しく、ほとんど理解できない。そのため具体例を出して説明する必要があるが、関連事項が2つ3つと増えていくと理解が難しくなる。

また文章読解や漢字についても課題を抱えている。高等学校の教科書を読んでも理解できない語句が多く理解が困難なため、教科書の内容を平易にまとめたプリントを作成しているが、それでも理解できない語句は多い。

自身が世界史Bに対して苦手意識を持っているが、発問に答えられないことやテストで問題が解けないことなど、できない自分を受容できていない面がある。そのため、理解できなくても「知っている」「わかる」「聞いたことがある」などと答えることが多い。客観的な自己認識はほとんどできていない。

### (2) 教材観

ア 大航海時代の背景の理解をねらいとする。

イ コロンブスやヴァスコ＝ダ＝ガマの航路選定理由を思考させることをねらいとする。同時に地理的なイメージの定着もねらいとする。

ウ 「大西洋世界」出現の経緯とその影響の理解をねらいとする。同時にその影響が今日の世界にも影

響していることへの意識をねらいとする。

エ 大西洋世界の出現と世界の一体化が日本の戦国時代へ影響していることへの意識をねらいとする。

(参考) 高等学校学習指導要領において、世界史Bの目標と本単元の内容は以下のように示されている。

## 1 科目の性格と目標

### (2) 目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2 内容

### (4) 諸地域世界の結合と変容

#### イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界

ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。

この中で今回の単元である東方航路の開拓と大西洋世界の出現は、内容中の「世界各地への進出と大西洋世界の形成」に関わる。

また学習指導要領解説において本単元は以下のように示されている。

「ヨーロッパの対外的動向として、15世紀後半以降、アジアやアメリカ、アフリカに対して積極的な対外進出が行われたこと、その結果実現したアジア貿易への参入や、大量のアメリカ銀の流入により、ヨーロッパ経済が大きく成長し転換したことをとらえさせる。」

「一方、このようなヨーロッパ諸国による積極的な対外進出の結果、アメリカでは、スペイン人によりアステカ、インカ両帝国が滅ぼされ、ヨーロッパ人の入植と開発が南北でそれぞれ進行し、先住民社会は変容を余儀なくされたことを把握させる。また、アフリカ系奴隷を労働力とする砂糖やタバコのプランテーション経営が成立し、ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカを結ぶ三角貿易が発

達したこと、その結果、西ヨーロッパを中心とする大陸間分業体制が確立し、大西洋世界が形成されたことを理解させる。」

### (3) 指導観

- ア プリント教材は本人が見やすいよう 18 ポイントゴシックで作成し、ふりがなや説明を記入しやすいよう行間は 2.5 に設定している。プリントは紙だけでなくデータでも配付し、本人所持の iPad のアプリ iBooks で閲覧し、細かい漢字や画像などを自由に拡大できるようにする。
- イ プリント教材に重要語句と年表を掲載し、事前に漢字や大まかな流れなどを確認できるようにする。またプリントに画像や地図のデータ、おまけコラムを掲載することで、本人の関心を高めるようにする。
- ウ プリント教材は本人が理解しやすいよう、教科書の内容を平易にまとめたものを作成する。またバーバリズム（語句名だけ知っているが、その内容を理解していない状態）を防ぐため、文章中で本人の理解が難しい、漢字の読みがわからないと予想される語句については指導者が確認を行う。
- エ 「なぜ (Why)」と「(具体的に) どうして (How)」に関する問いを授業の柱とし、プリント教材のサブタイトルに問いを設定することで、生徒が論理的思考力を向上できるようにする。またプリントが終わるごとに振り返りノートにその問いを中心に学習内容の振り返りを書かせることで、学習内容の定着と思考実践ができるようにする。
- オ 本單元に関しては、通常のプリント教材ではなく、指導者が 2017 年 12 月 27 日 (水) 科学へジャンプ・イン・兵庫のワークショップで担当した内容を基にしたプリント教材を使用し、生徒の実態に合わせてより中学校段階の基本的な内容理解に重点を置いて指導を行うようにする。
- カ 授業開始時に現在の世界地図を使って学習する地域を確認することで、学習内容の見通しを持たせるよう、また地理的なイメージが定着するようにする。特に本單元では理解を深めるため地域を限定した立体コピー地図を用意する。また日本史でいう何時代かを確認することで、日本史との関連を深めるよう、時代のイメージを持てるようにする。



キ 既習事項であるヨーロッパでの香辛料熱（ヨーロッパが肉食であり、肉類の保存のために重用されたこと、また非常に高価であったこと）、十字軍やレコンキスタによるヨーロッパ世界の拡張、ルネサンスでの方位磁石の発明と航海術の向上（大型船で外洋へ出ても位置を把握することができるようになったこと）を確認し、大航海時代の背景を理解できるようにする。

ク 香辛料の産地インドへの障害であるオスマン朝の位置を地図上で確認することで、「ヴァスコ＝ダ＝ガマの航路がアフリカ南端を經由してインドを目指した理由（オスマン朝を避けるため）」や「コロンブスの航路が大西洋を横断してインドを目指した理由（先行するポルトガルに逆転するため、地球球体説に基づいて新航路を模索した）」を理解できるようにする。

ケ スペインのアメリカ征服と先住民の激減、代替労働力としてのアフリカ黒人の奴隷貿易、にともなう「大西洋世界」の出現を、ヨーロッパの変化（銀の大量流入による価格変動、新しいモノが伝わったことによる生活の変化、特にジャガイモの普及による人口増加などの変容）や大西洋三角貿易（アフリカ黒人の奴隷貿易）の内容など具体的に確認し、理解できるようにする。またトウガラシやトマト、カカオは現在の世界各国の名物料理となっていること、奴隷貿易について、現在のアメリカ大陸での黒人やメスティーソなどの混血が存在することを伝え、現代社会への影響を意識できるようにする。

コ 大西洋世界の出現と世界の一体化（マゼランの航路とスペイン・ポルトガルの東南アジア進出）を日本の戦国時代に与えた影響（鉄砲・キリスト教伝来、南蛮貿易）と関連付け、日本史との関わりを意識できるようにする。

## 7. 評価の観点

| A 関心・意欲・態度                   | B 思考・判断・表現                    | C 技能                          | D 知識・理解                      |
|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 新航路の開拓活動、征服活動とアメリカ大陸で生じた先住民社 | 大航海時代を「世界の一体化」の本格化と、アメリカ大陸の植民 | 立体コピー地図、ヨーロッパ人による航海図、アステカ征服や銀 | アメリカ先住民社会の変容、アメリカ原産の物産が世界各地に |

|                          |  |                       |                                     |
|--------------------------|--|-----------------------|-------------------------------------|
| 会の変容に関して、意欲的に学習しようとしている。 | 地化の始まりであることを、関連付けて考察し、振り返りでまとめることができる。 | 山での労働などの図版を適切に活用している。 | 及ぼした影響に関して、おまけを活用して基本的な知識をさらに深めている。 |
|--------------------------|--|-----------------------|-------------------------------------|

## 8. 指導計画（全2時間）

| 時           | 学習内容                  | 主な評価規準【観点】   |
|-------------|-----------------------|--|
| 第1時<br>(本時) | コロンブスについて             | <p>ア コロンブスがなぜアメリカ大陸に到達したのかを、自分自身の言葉で論理的に説明し、振り返りノートにまとめることが記述できる。【B 思考・判断・表現】</p> <p>イ コロンブスが大西洋横断ルートを選んだ理由を地図上で説明できる。【C 技能】</p>   |
| 第2時         | 039. 東方航路の開拓と大西洋世界の出現 | <p>ア 航海時代を「世界の一体化」の本格化と、アメリカ大陸の植民地化の始まりであることを、関連付けて考察し、振り返りでまとめることができる。【B 思考・判断・表現】</p> <p>イ ヨーロッパ人による航海図、アステカ征服や山での労働などの図版を適切に活用している。【C 技能】</p> <p>ウ アメリカ先住民社会の変容、アメリカ原産の物産が世界各地に及ぼした影響に関して、おまけを活用して基本的な知識をさらに深めている。【D 知識・理解】</p> |

## 9. 本時

### (1) 本時の目標

- ア コロンブスがなぜアメリカに到達したのかを、1つひとつ発問を重ね理解できるようにする。
- イ 世界地図上で、スペイン・インド・オスマン帝国・アメリカ大陸の位置関係を理解できるようにする。

### (2) 本時の評価規準

- ア コロンブスがなぜアメリカ大陸に到達したのかを、自分自身の言葉で論理的に説明し、振り返りノートに記述できる。【B 思考・判断・表現】
- イ コロンブスが大西洋横断ルートを選んだ理由を地図上で説明できる。【C 技能】

### (3) 本時で扱う教材

プリント教材：コロンブスについて（データ版も配付）、世界地図、立体コピー地図、地球儀  
教科書は使用しない。

### (4) 本時の判断基準

|   | A 十分に満足できる   | B 概ね満足できる  | C 努力を要する生徒への支援                                      |
|---|--|--|---|
| ア | ①当時香辛料が貴重で高価であったこと、②その産地がインドを目指したこと、③地球球体説を知っていたこと、④オスマン朝を避けたこと、⑤ポルトガルに逆転するために大西洋横断を目指した | ②インドを目指したこと、④オスマン朝を避けたこと、⑥当時アメリカ大陸は知られていなかったことの3点を振り返りノートで説明できている。 | 理解が十分でない場合は指導者に確認するよう声かけを行う。<br>必要に応じて授業内容の振り返りを行う。 |

|   |   |   |                     |
|---|---|---|---------------------|
|   | こと、⑥当時アメリカ大陸は知られていなかったことの6点を振り返りノートで説明できている。  |   |                     |
| イ | ①スペインから出発したこと、②インドを目指したこと、③オスマン朝を避けたこと、④アフリカ南端経由はポルトガルが先行していたこと、⑤地球球体説に基づいて直接インドを目指して大西洋を横断したことの5点を理解し、地図上の位置関係を理解した上で、世界地図上で説明できる。 | ②インドを目指したこと、⑤地球球体説に基づいて直接インドを目指して大西洋を横断したことを、地図上の位置関係を理解した上で配付した立体コピー地図上で説明できる。 | 理解が十分でない場合は再度確認を行う。 |

(5) 本時の学習過程

| 時間            | 学習内容・学習活動  | 指導上の留意点   | 評価規準（評価方法）                     |
|---------------|--|---|--------------------------------|
| 10分<br>導<br>入 | <p>●学習範囲を確認する。</p> <p>・年代（日本含む）確認</p> <p>・スペイン、アメリカ大陸の位置確認</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> | <p>・1492年が何時代か、1467年応仁の乱（室町時代）を例に出す。</p> <p>・拡大世界地図を使用する。</p> <p>・生徒の理解が十分でない場合、位置関係などを説明する</p> | <p>【D 知識・理解】</p> <p>【C 技能】</p> |

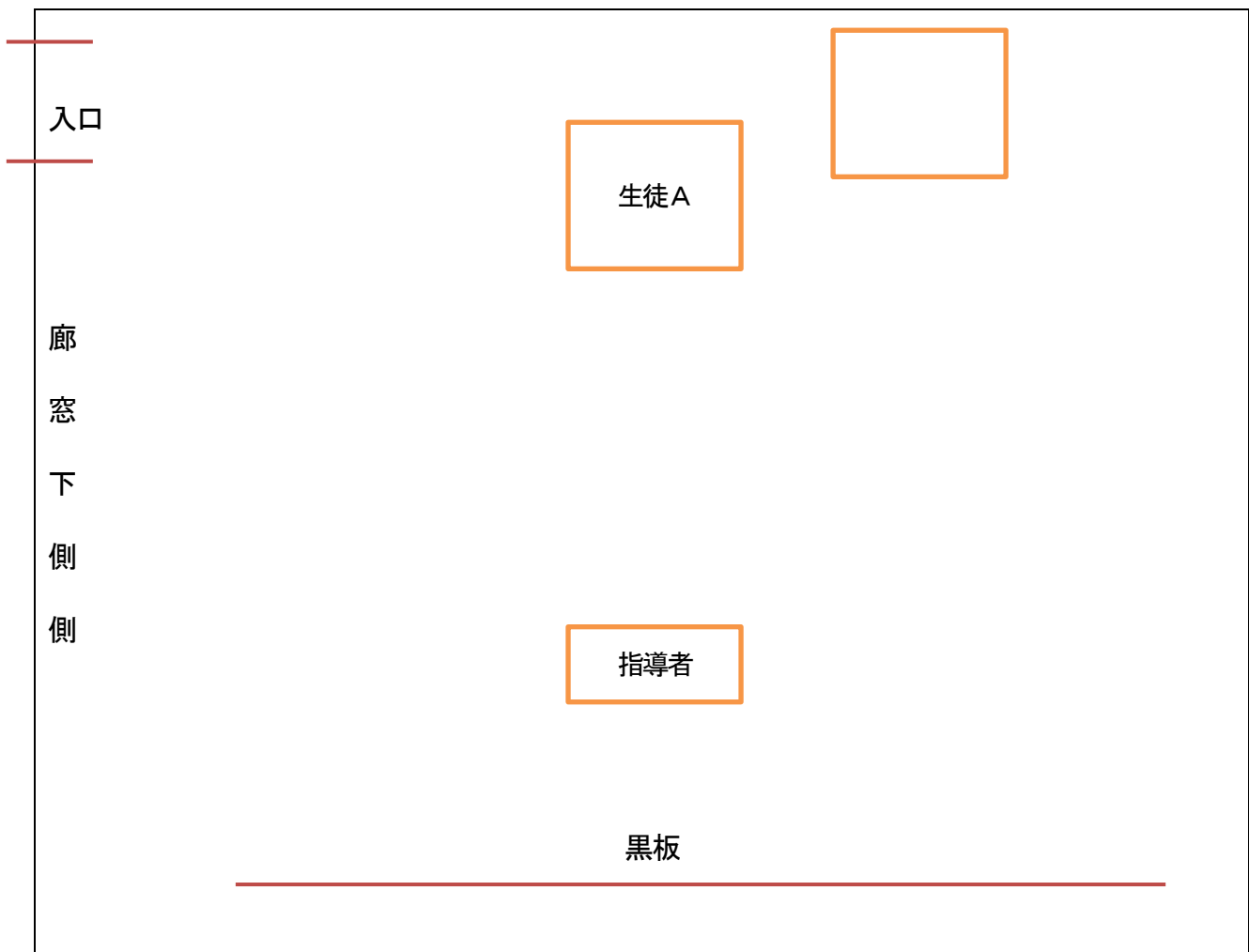
|                                   |   |  |   |
|-----------------------------------|---|--|---|
|                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何時代かはわからない</li> <li>・ ヨーロッパ、アメリカの州<br/>単位の位置はわかる</li> </ul> <p>●コロンブスについて学習<br/>することを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「コロンブスについて知っ<br/>ていること」を発問する。</li> </ul> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名前は知っている。</li> <li>・ アメリカ大陸発見はわから<br/>ない</li> </ul> <p>・ コロンブスのおおまかな経<br/>歴を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サブタイトルを確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリントを配付し、コロンブス肖<br/>像画を提示する。</li> <li>・ 生徒の理解が十分でない場合、ア<br/>メリカ大陸発見を説明し、再度ア<br/>メリカ大陸の位置を確認する。</li> </ul> <p>・ 生徒が学習内容の見通しを持てる<br/>ようにする。</p> | <p>【D 知識・理解】</p> <p>【A 関心・意欲・態度】</p>    |
| <p>15<br/>分<br/>展<br/>開<br/>①</p> | <p>●「コロンブスはなぜインド<br/>を目指したのか」を発問す<br/>る。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わからない</li> </ul> <p>→既習事項は覚えていない</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の理解が十分でない場合、「カ<br/>レー・スパイス」などのヒントを<br/>出す。また既習内容の地中海貿易<br/>圏の内容と絡めて確認する。</li> <li>・ 胡椒のイメージを強めるため、実<br/>物を触らせる。</li> </ul>                  | <p>【A 関心・意欲・態度】</p> <p>【B 思考・判断・表現】</p> |

|                                 |  |   |   |
|---------------------------------|--|---|---|
|                                 | <p>●「なぜ胡椒が欲しかったのか」を発問する。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べるため</li> </ul> <p>→そんなに高かったんだ</p> <p>●「胡椒はどこで手に入ったのか」を発問する。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インド（おおまかな位置もわかる）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 味付けや保存のためだけでなく、胡椒が非常に高価であったことを確認する。</li> <li>・ 胡椒 1 瓶の価値を分かりやすいように現在の金相場を確認する（計算させる）。</li> <li>・ インドの位置を世界地図、立体コピー地図で確認し、インドの場所に丸シールを貼らせる。</li> </ul>                        | <p>【A 関心・意欲・態度】</p> <p>【B 思考・判断・表現】</p> <p>【D 知識・理解】</p> <p>【B 思考・判断・表現】</p> <p>【C 技能】</p> <p>【D 知識・理解】</p> |
| <p>15 分</p> <p>展 開</p> <p>②</p> | <p>●「どういうルートでインドを目指したのか」を発問する。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接、陸路で目指す</li> <li>・ アフリカ南端経由</li> </ul> <p>●コロンブスが大西洋を横断した理由を説明する。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界地図で確認した後は、アメリカ大陸がない立体コピー地図でルートを確認する。</li> <li>・ 地球球体説を確認するため、地球儀を触らせる。</li> <li>・ オスマン朝の位置、ポルトガルのルート、地球球体説を説明し、理解しやすいよう立体コピー地図で確認する。</li> <li>・ ルネサンスの羅針盤の発明も関連</li> </ul> | <p>【B 思考・判断・表現】</p> <p>【C 技能】</p> <p>【C 技能】</p> <p>【D 知識・理解】</p>  |

|     |   |  |  |
|-----|---|--|--|
|     | <p>●「当時のヨーロッパの人々は世界をどのように考えていたのか」を発問する。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 丸い</li> </ul> <p>●「コロンブスの航海は無事に進んだのだろうか」</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふつうに進んだ</li> <li>→そんなに大変だったんだ</li> </ul> <p>●「コロンブスがアメリカ大陸に到達してから、ヨーロッパにどんな影響があったのか」を説明する。</p> | <p>して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時の世界想像図を示し、当時の一般の人々の考えを理解させる。</li> <li>・ 当時の世界想像図を再度確認する。</li> <li>・ 意欲を高めるようコロンブスの航海の具体的な内容を説明する。</li> <li>・ トウガラシやトマト、カカオは現在の世界各国の名物料理とされていることなど身近な例も挙げて説明する。</li> <li>・ ルネサンスの火砲発明と日本戦国時代の鉄砲伝来を関連づけて説明する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>【B 思考・判断・表現】</li> <li>【C 技術】</li> <li>【D 知識・理解】</li> <li>【A 意欲・関心】</li> <li>【B 思考・判断・表現】</li> <li>【D 知識・理解】</li> <li>【D 知識・理解】</li> </ul> |
| 10分 | <p>●サブタイトル「コロンブスはなぜアメリカ大陸に到達したのか」を発問し、ま</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の理解が十分でない場合、ま</li> <li>・ ずわからないことに関する質問を促し、位置関係など含めて再度</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>【C 技術】</li> </ul> <p>※本時の評価基準 イ</p>   |

|             |   |  |                            |
|-------------|---|--|----------------------------|
| ま<br>と<br>め | ず地図上で説明させる。<br><br>●「コロンブスはなぜアメリカ大陸に到達したのか」を振り返りノートにまとめさせる。 | 説明する。<br><br>・時間が足りない場合は課題とし、評価は次回に行う。時間に余裕がある場合は、評価も行う。 | 【B 思考・判断・表現】<br>※本時の評価基準 ア |
|-------------|---|--|----------------------------|

(7) 座席配置図



(7) 板書計画

本時は板書を行わない。



## 10. 本時の評価

ア コロンブスがなぜアメリカ大陸に到達したのかを、自分自身の言葉で論理的に説明し、振り返りノートに記述できる。【B 思考・判断・表現】

生徒の振り返りノートの記載内容は以下の通りである。

「この時代ヨーロッパの人々は地球が丸いということを知らなかった。コロンブスは地域と地域が結び付いているということに気づいた。そして香辛料を手に入れるためにインドを目指した。オスマン帝国もインドを目指していたが、コロンブスとは違うルートで進んでいった。オスマン帝国はアフリカ大陸を回って一番近いルートで進んだ。コロンブスは戦いを避けるために遠回りですずっと海を渡って進んだ。海を渡ってついにアメリカにとうちゃくした。」

「しかしコロンブスはここをインドだと思い込んでしまった。だから今はアメリカにコロンブスはいる」

②インドを目指したこと、③地球球体説を知っていたこと、④オスマン朝を避けたこと、の3つについてはおおむね記載できている。内容を論理的に説明することができておらず、学習内容と異なって理解している部分、日本語の表記として十分でない部分が多く見られるため、評価としてはC相当と判断した。

イ コロンブスが大西洋横断ルートを選んだ理由を地図上で説明できる。【C 技能】

生徒の様子を観察すると、インドやアフリカ大陸などの位置関係は世界地図上で理解できていた。②インドを目指したこと、④地球球体説に基づいて直接インドを目指して大西洋を横断したことを、地図上の位置関係を理解した上で配付した立体コピー地図上で説明できる、の2点は達成できていた。しかし、地球球体説という単語は知っているが、実際に理解できておらず、ヨーロッパ西部の大西洋とアメリカ大陸東部の大西洋がつながっているということは理解できておらず説明が必要であった。

# 「数学科 数学A」学習指導案

指導者 片桐 向陽

1. 日時 平成29年〇月〇日(〇) 第2時限 (9:50~10:40)
2. 対象 高等部普通科2年A類型 生徒1名
3. 場所 高等部普通科2A教室
4. 単元名 「確率」
5. 単元の目標 (ねらい)
  - ・和事象と積事象, 排反事象, 確率の加法定理, 余事象とその確率について学び, これらを利用して確率が求められるようになる。

## 6. 本時の展開

|    | 学習活動  | 指導・支援  | 評価規準  |
|----|---|--|---|
| 導入 | 既習内容の確認<br>(全体集合, 補集合, 排反事象, 確率の加法定理等)  | 口頭で質問し, 必要事項を黒板にまとめる。(本時に必要な知識の確認。忘れていたことの補充)  | 【知識・理解】   |
| 展開 | <p>本時の目標の確認</p> <p>余事象の定義を知る。また, サイコロ目の出方の例を通して既習事項との関連に気づく。</p> <p><math>P(A) + P(\overline{A}) = 1</math> をサイコロ目の出方例を通して理解する。</p> <p><math>P(A) + P(\overline{A}) = 1</math> から,<br/> <math>P(A) = 1 - P(\overline{A})</math> や<br/> <math>P(\overline{A}) = 1 - P(A)</math> に変形できることを確認する。</p> | <p>「～でない」確率を学習すれば, 計算が楽になることがあることを伝える。</p> <p>事象とその余事象の関係は, 集合とその補集合の関係に対応することに気づかせる。</p> <p>一般論で理解することが難しくても, 具体例で理解していればよいことを伝える。</p> <p>問題を解くためにはこちらの式の方が有用であることを伝える。</p> | <p style="text-align: center;">【関心・意欲・態度】</p> <p style="text-align: center;">【数学的な見方や考え方】</p> <p style="text-align: center;">【知識・理解】</p> <p style="text-align: center;">【知識・理解】</p> |

|     |  |   |                           |
|-----|--|---|---------------------------|
|     | 余事象の考えを使った問題を解く。(1から20までの番号札から5の倍数でない札を引く確率) | 生徒の理解状況を確認する。                                     | 【数学的な技能】                  |
| まとめ | 本時のまとめと次時の予告                                 | 理解状況に応じて本時の学習を確認する。<br>「少なくとも」が次時のキーワードになることを伝える。 | 【知識・理解】<br><br>【関心・意欲・態度】 |

## 「自立活動（歩行）」学習指導案

指導者 渡邊 史子

1. 日時 平成30年〇月〇日(〇) 第3時限(10:50~11:40)

\* 歩行指導については、前半の時間帯のみ

2. 対象 高等部本科普通科2年C類型 生徒1名

3. 場所 高等部普通科C教室、寄宿舍北側道路

4. 単元 「白杖による目的地歩行」

5. 単元の目標

- ・白杖を適切に操作する。
- ・ランドマークやクルーを理解し、活用する。
- ・目的地まで安全に単独で歩行する。

6. 本時の展開

|    | 学習活動  | 指導・支援   | 評価規準  |
|----|---|---|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容の確認</li> <li>・前時のふり返り</li> <li>・寄宿舍門へ移動</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の予定を伝達する。</li> <li>・前時の様子、良かった点、反省点をふり返り、本時の意欲を高める。</li> <li>・手引きで移動しながら意欲を高め、自信をもって取り組めるよう声かけをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもって内容を聞くことができる。【関】</li> <li>・前時のことを思い出しながら聞くことができる。【思】</li> <li>・単独でいけるようになることを楽しみに取り組むことができる。【関】</li> </ul>                          |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舍門前から道路北側自動販売機へ白杖を使用し歩行する。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ1つの行動の前に次の行動を口頭で確認する。</li> <li>・必要に応じて声をかけ、再確認する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動を口述できる。【思】</li> <li>・進行方向が理解できる。【思】【知】</li> <li>・音響信号のボタンの位置が理解できる。【思】【知】</li> <li>・信号の判断ができる。【思】【知】</li> <li>・安全に横断できる。【思】【知】</li> </ul> |

|     |   |  |  |
|-----|---|--|--|
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的地に着いたことを報告する。</li> <li>・寄宿舍門へ移動し、3～4回繰り返す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価する。</li> <li>・達成状況、本人の様子、天候に応じて繰り返す回数を判断する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道にのったことが理解できる。【思】【知】</li> <li>・視覚障がい者誘導用ブロックを伝って歩くことができる。【思】【知】</li> <li>・目的地を理解できる。【思】【知】</li> </ul> |
| まとめ | 次時の予告   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の予定を伝達する。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の予定を理解し、期待感を膨らますことができる。【知】【関】</li> </ul>   |

# 「情報科 社会と情報」学習指導案

指導者 藤原 優子

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第1時限（8:50～9:40）
2. 対象 高等部本科普通科1年A類型 生徒1名
3. 場所 高等部普通科1A教室
4. 単元名 第2編 デジタル情報と情報の活用  
第4章 情報の表現と伝達  
C 表現の工夫
5. 単元の目標
  - ・情報伝達メディアの性質を知り、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を習得する。
  - ・文字の配置に対するショートカット操作を身に付ける。
  - ・文書の体裁を理解する。

## 6. 本時の展開

### （1）題材名

「案内文を作成しよう」

### （2）本時の目標

- ・文書の体裁を理解し、伝えたい情報をわかりやすく表現することができる。
- ・ショートカットキー操作ができる。
- ・iPadを活用し、意味調べをすることができる。

### （3）展開

|           | 学習活動     | 指導・支援  | 評価規準                            |
|-----------|----------|--|---------------------------------|
| 導入<br>10分 | 既習内容の確認  | 文書作成ソフト MicrosoftWord を起動し、必要な個人設定をさせる。準備ができたなら、タイピング練習をさせる。 | 既習事項についてすすんで実習しようとする。【関心・意欲・態度】 |
| 展開        | 本日の課題の確認 | プリントを配付し、本時の課題を説明する。5W1Hについて質問し、5W1Hが内容に含まれていることを確認する。       | 5W1Hについて理解する。【知識・理解】            |

|            |                           |   |  |
|------------|---------------------------|---|--|
| 30分        | 文書の体裁、文字種について確認し、文書を作成・保存 | <p>必要な情報を入力した後、編集するよう伝える。</p> <p>作業の途中で保存する必要性に気づかせる。</p> <p>iPad を活用し、わからない単語については、意味を調べさせる。</p> | <p>文書の体裁を理解できる。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>指示に基づいて操作を行うことができる。</p> <p>【技能】</p> <p>すすんで実習を行っている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> |
| まとめ<br>10分 | 墨字文書と点字文書を比較              | <p>編集済みの点字文書を配付し、墨字文書と編集済みの点字文書の体裁について考察させ、気が付いたことを発表させる。</p>                                     | <p>作成した文書について、点字の文書との違いを考察できる。【思考・判断・表現】</p>   |

## 「社会科」学習指導案

指導者 T 1 加賀 一朗  
T 2 辰己 祐幸  
T 3 滝口 寛紀

1. 日時 平成30年〇月〇日 (〇) 第2時限 (9:50~10:40)
2. 対象 高等部本科普通科1・2・3年B類型 生徒7名
3. 場所 高等部普通科B1教室
4. 単元名 「室町・戦国時代」
5. 単元の目標
  - ・武家政権ができた鎌倉時代や室町時代の幕府側と朝廷側との争いの歴史を理解する。(歴史プリントP1~P2)
  - ・現代に残る身近な室町文化にふれて興味・関心をもつ。(本時 歴史プリントP3~P4)
  - ・有名な戦国大名の活躍と天下統一に向けての流れを理解する。(本時 歴史プリントP4~P6)

### 6. 本時の展開

|            | 学習活動   | 指導・支援   | 評価規準    |
|------------|--|---|---------|
| 導入<br>(5分) | [既習内容の確認]  | ・歴史プリントで学習した室町時代の重要語句(室町幕府・足利尊氏・南北朝時代・応仁の乱など)の復習を口頭で質問する。(T1)   | 【知識・理解】 |
| 展開         | [本時の学習内容]<br>・「室町文化」について、歴史プリントを読んで重要語句を記入する。<br><br>・「応仁の乱」後の混乱した時代から「戦国時代」への移り変わりを歴史プリントで確認する。 | ・生徒の経験や知識から「金閣寺」「伽草子」「一休さん」など言葉をできるだけ引き出す。(T1)<br>・プリントへの語句記述支援や質問への回答をする際の補助などを行う。(T2)(T3)<br><br>・数名の戦国武将の話題を交えながら、下克上などの語句にもふれる。(T1) |         |



|                |  |   |  |
|----------------|--|---|--|
| <p>(40分)</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天下統一を目指した「織田信長」について学習する。</li> <li>・ その他、忍者や海外での出来事についても学習する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火縄銃を使った織田信長の戦法などについても考える。(模型使用)(T1)</li> <li>・ 手裏剣模型を使い興味を持たせる。(T1)</li> </ul> |  |
| <p>まとめ(5分)</p> | <p>[本時のまとめと次時の予告]</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理解状況に応じて本時の学習確認をする。(T1)</li> <li>・ 次時の天下統一をした「豊臣秀吉」についてふれる。(T1)</li> </ul>     |  |

## 「自立活動（運動）」学習指導案

|     |     |    |    |
|-----|-----|----|----|
| 指導者 | T 1 | 石橋 | 典子 |
|     | T 2 | 村上 | 博紀 |
|     | T 3 | 成相 | 純子 |
|     | T 4 | 牧内 | 直子 |
|     | T 5 | 辰己 | 祐幸 |
|     | T 6 | 松浦 | 紫陽 |

1. 日時           平成29年〇月〇日(〇) 第2時限 (9:50~10:40)
2. 対象           高等部本科普通科1・2・3年BC類型 生徒7名
3. 場所           プレイルーム
4. 単元名       「サッカー（ジャストナンバー）」
5. 単元の目標
  - ・ 足を使ってボールを転がすことができる。
  - ・ ルールを理解し、チームで協力することができる。

### 6. 評価の観点

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現               | 技能   | 知識・理解   |
|---|------------------------|--|---|
| ① 友だちの活動を意識して、楽しむことができる。<br>② 目標物に注目できる。<br>③ 自分が狙う的を伝えることができる。 | ① 感じたことを表情や声に出すことができる。 | ① ボールを足裏で捉えることができる。<br>② ボールを蹴る動作ができる。<br>③ ボールを蹴りだす力加減ができる。 | ① 教師の指示がわかる。<br>② 自分の出番に気付ける。<br>③ 蹴りだす強さでボールのスピード変化が分かる。 |

### 7. 指導計画（全12時間）

| 次   | 時   | 学習内容             | 評価規準     |          |    |       |
|-----|-----|------------------|----------|----------|----|-------|
|     |     |                  | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
| 第一次 | 1～3 | 足裏でボールをタッチする。    | ①        | ①        | ①  | ①     |
|     | 4～6 | 足裏でボールを捉えながら転がす。 | ②        | ①        | ①  | ①②    |

|             |      |                              |     |   |     |     |
|-------------|------|------------------------------|-----|---|-----|-----|
| 第二次<br>(本時) | 7～12 | 足裏でボールを捉える。<br>ボールを前方に蹴り転がす。 | ①②③ | ① | ①②③ | ①②③ |
|-------------|------|------------------------------|-----|---|-----|-----|

## 8. 本時

### (1) 本時の目標

- ・友だちの活動を意識して、気持ちを表出する。(関心・意欲・態度①) (思考・判断・表現①)
- ・自分の出番に気づき、狙うのを伝える。(関心・意欲・態度③) (知識・理解②)
- ・ボールを蹴りだす力加減ができる。(関心・意欲・態度②) (技能③) (知識・理解③)

### (2) 本時の評価の観点

- ・友だちの活動を意識しながら見たり聞いたりしているか。
- ・目標にむかってボールを蹴ることができたか。

### (3) 生徒の実態と本時の目標

|   | 子どもの実態  | 本時の目標  | 評価規準  |
|---|---|--|---|
| A | てんかん発作、フラッシュバックによるパニックがある。まぶしいところでの手引きが必要。                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて活動することができる。</li> <li>・距離を意識してボールを蹴ることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に参加することができる。</li> <li>・ボールを蹴る力加減ができる。</li> </ul>      |
| B | 情緒が不安定なときがある。声かけに対し、意思表示ができる。手引きが必要。                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に活動することができる。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを表情や声に出したり、ボールを蹴ることを意識して足を出したりすることができる。</li> </ul> |
| C | 音楽が好きで、音楽が鳴ると手拍子をする。風を感じるが好き。声かけに対し、意思表示ができる。手引きが必要。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に活動することができる。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを表情や声に出したり、ボールを蹴ることを意識して足を出したりすることができる。</li> </ul> |
| D | 羞明が強いため、日光が入らないようにアイシェードの着用や遮光カーテンなどで工夫が必要。ストレスを感じやすく、全身の痒みが強いため授業に参加 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・距離を意識してボールを蹴ることができる。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを蹴る力加減ができる。</li> </ul>                               |

|   |  |   |   |
|---|--|---|---|
|   | できない日がある。アイシェード着用時は手引きが必要。   |   |   |
| E | 音楽が好きで、音源場所のスピーカーまで移動することがある。声かけに対し、意思表示ができる。手引きが必要。                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に活動することができる。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを表情や声に出したり、ボールを蹴ることを意識して足を出したりすることができる。</li> </ul>     |
| F | 視野欠損。対象が二重に見える。心肺停止による肢体不自由。車椅子使用。胸にICDが入っている。指導者や友だちとの会話を楽しむことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一歩でも多く歩くことができる。</li> <li>・距離を意識してボールを蹴ることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランニングの際、自分の力で手すり歩行ができる。</li> <li>・ボールを蹴る力加減ができる。</li> </ul> |

#### (4) 本時の展開

|    | 学習活動  | 指導上の留意点及び支援のてだて等  | 評価規準（評価方法）  |
|----|---|---|---|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・ランニング</li> <li>・ラジオ体操</li> <li>・オブラディ体操</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番に始まりの挨拶を行わせる。</li> <li>・手引きが必要な生徒には手引きを行う。</li> <li>・体操の動きの声かけをする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示を理解している。（知識・理解①）</li> </ul>                                       |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のジャストナンバーゲームの説明を聞く</li> <li>・蹴る順番を決める</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の内容を確認する。</li> <li>・ジャストナンバーの説明をする。（別紙1参照）</li> <li>・狙い通りに蹴るためにボールへの力加減をすること（調整力）が大切だと伝える。</li> <li>・1球交替の3周でボールを蹴り転がすことを伝える。</li> <li>・1～4の好きな数字を言うように促し、早い者勝ちで順番を決めさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を理解している。（知識・理解①）</li> <li>・順番を決めるときに自分の意思を何らかのかたちで表</li> </ul> |

|            |  |  |   |
|------------|--|--|---|
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 笛の合図で狙う的の数字を言ってからボールを前方へ蹴り、転がす。</li> <br/> <li>・ 点数を聞く</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 狙う的の位置を音響で知らせる。</li> <br/> <li>・ ボールが転がっている実況を行い停止した位置と点数を知らせる。</li> </ul>  | <p>現している。(思考・判断・表現①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の出番に気付ける。(知識・理解②)</li> <li>・ 自分が狙う的を伝えることができる。(関心・意欲・態度③)</li> <li>・ 目標物に注目できる。(関心・意欲・態度②)</li> <li>・ ボールを蹴る力加減ができる。(技能③)</li> <li>・ 蹴りだす強さでボールのスピード変化に気付ける(知識・理解③)</li> <li>・ 友だちの活動を意識して楽しむことができる(関心・意欲・態度①)</li> </ul> |
| <p>まとめ</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のまとめ</li> <br/> <li>・ 次回の予告</li> <br/> <li>・ 挨拶</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各生徒の合計点数、一番狙い通りに蹴ることができた生徒(MVP)を発表する。</li> <br/> <li>・ 3学期の授業内容はサーキットトレーニングをすることを伝え、見通しを持たせる。</li> <br/> <li>・ 当番に終わりの挨拶を行わせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームを理解している。(知識・理解①)</li> </ul>   |

# 「保健理療科 生活と疾病（リハビリテーション医学）」学習指導案

指導者 尾方 剛

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第3時限（10：50～11：40）
2. 対象 高等部専攻科保健理療科2年 生徒5名
3. 場所 専攻科保健理療科2年教室
4. 単元名 「脳血管障害（脳卒中）のリハビリテーション」
5. 単元の目標
  - ・脳血管障害についてその症状、評価、リハビリテーションの進め方、リスク管理の知識を習得する。その上で、基礎実習で学習する運動療法などと併用し、あん摩マッサージ指圧師として脳血管障害の患者の治療に対応・応用するための基礎知識として活用できるようにする。

## 6. 指導にあたって

### （1）生徒観

日頃より、知識定着に向け、復習を心がけるなど熱心に学習に取り組んでいる。授業に対しては、文字の読み書きの速度、言葉の理解度、意欲の持続などで個々に課題を抱えており、成績引き上げのための補習、理解を深めるための補足など、個別対応を必要に応じて行っている。そのような実態を踏まえ、教科書、要点のプリントなどを読ませながら、既に学習した関連事項を発問するなどして、理解や定着の度合いを確認しながら進めている。

### （2）単元観

リハビリテーション医学は、運動障害や高次脳機能障害などさまざまな疾患によって生じた障害の治療に関わる臨床医学の1分野であり、予防医学、治療学とともに重要視されている。第2学年で2単位設定し、学年の前半では、リハビリテーションに関わる障害の概念、障害レベルの評価、リハビリテーション治療法の基礎などを学習し、後半はリハビリテーションの対象となる疾患ごとにその症状、評価、治療法について学習する。

脳血管障害は、高齢者を中心に発症の割合が高く、リハビリテーションの対象となる場合も多く、とりわけ、あん摩マッサージ指圧師として高齢者施設や在宅における患者との関わりも

多くなっている。解剖学、運動学などの知識を基に、脳血管障害の症状、評価、リハビリテーション治療についてその知識を習得させる。

### (3) 指導観

本時の指導に当たっては、前回学習した脳血管障害の症状を振り返り、それを基にどのような評価項目があるかを考えさせる。その後、評価で重要度の高い運動機能評価の「ブルンストロームの回復段階」について、その経過中にみられる特徴の1つである「共同運動」とともに理解させる。脳血管障害の患者に出現する症状は患者個々により異なるので、検査によって把握した症状、重症度、回復度がそれぞれ異なり、状態に応じたリハビリテーションプログラムが必要となることを、単元を通じて理解させたい。

## 7. 評価の観点

- ①脳血管障害における症状、評価、リハビリテーションの進め方、リスク管理について基本的事項が理解できたか。
  - ②脳血管障害の患者の治療に対応・応用するための基礎知識として活用できる水準にあるか。
- ※評価基準は、上記①②を達成しているかについて、定期試験の点数を軸に授業における発問による理解度を考慮したものとする。

## 8. 指導計画（全8時間）

単元：脳血管障害（脳卒中）のリハビリテーション（8時間）

脳血管障害（以下同じ）の概念と分類（1時間）、症状（2時間）、  
評価（1時間）、リスク管理（1時間）、  
急性期のリハビリテーション（1時間）、  
回復期のリハビリテーション（1時間）、  
維持期のリハビリテーション（1時間）

### 【本時までの経過】

本時は、脳血管障害のリハビリテーションの4時間目であり、脳血管障害の評価に当たる。評価法やリハビリテーション治療を考える基礎となる脳血管障害の症状を学習した段階である。

## 9. 本時

### (1) 題材名

脳血管障害の評価

### (2) 本時の目標

- ①脳血管障害の症状から、評価項目やそれに必要な検査項目を考えることができる。
- ②運動機能評価の「共同運動」「ブルンストロームの回復段階」について理解できる。

### (3) 本時の評価の観点

- ①脳血管障害の症状から、評価項目・検査項目を導き出すことができたか。
- ②運動機能評価の「共同運動」「ブルンストロームの回復段階」について動きとともに理解できたか。

※評価基準は、上記①②を達成しているかについて、本時の発問による理解度を指標とする。

### (4) 本時で扱う教材（使用教科書）

「生活と疾病 I A リハビリテーション医学（概論編）」

（日本理療科教員連盟教科書委員会編）

### (5) 生徒の実態

|     |   |
|-----|---|
| 生徒A | 男、墨字使用、拡大読書器使用。拡大読書器を使つての教科書の記載位置確認に時間を要し、音読にもやや時間を要する。                   |
| 生徒B | 女、墨字使用。教科書での学習に十分な視力がある。  |
| 生徒C | 女、スタルガード病。墨字使用、拡大読書器使用。拡大読書器を使つての教科書の記載位置確認にやや時間を要し、音読にも時間を要し、多少の読み誤りがある。 |
| 生徒D | 男、未熟児網膜症。墨字使用。教科書での記載位置確認や音読に時間的な問題はないが、多少の読み誤りがある。                       |
| 生徒E | 男、網膜色素変性症。墨字使用。教科書での学習に十分な視力がある。  |



(6) 本時の展開

|              | 指導内容               | 指導者  | 生徒                           | 留意点   |
|--------------|--------------------|--|------------------------------|---|
| 導入<br>(5分)   | 前時までの復習と本時の学習事項の確認 | 前時までの学習事項について発問する。<br>・脳血管障害の症状は？<br>・特に現れやすい症状は？<br>・二次的合併症は？         | 指導者の発問に答える。                  | 答えられない場合は、ヒントを与え答えを導き出す。  |
| 展開1<br>(10分) | 脳血管障害の評価－評価項目と検査項目 | 症状から必要と思われる評価項目、検査項目を考えさせる。検査項目は既に学習した障害の評価を基に考えるよう伝える。生徒全員に1つ以上答えさせる。 | 指名された生徒は評価項目、検査項目を答える。       | 答えられない場合は、ヒントを与え答えを導き出す。  |
| 展開2<br>(30分) | 脳血管障害による運動障害の評価    | 共同運動とブルンストロームの回復段階について、配付プリントを生徒に音読させ、それぞれの特徴を説明する。                    | 指名された生徒はプリントを音読する。指導者の説明を聞く。 | 共同運動はブルンストロームの回復段階の経過の中で出現する時期があることを強調しながら、屈筋共同運動パターンと伸筋共同運動パターンを覚えるよう指導する。<br>ブルンストロームの回復段階は、発症直後は弛緩期、以後痙性期として共同運動、分離運動へ変化することを踏まえ、6つの各ステージの全般的特徴をまず抑え、その上で各部位の特徴を覚え |

|                     |                     |  |                    |   |
|---------------------|---------------------|--|--------------------|---|
|                     |                     |  |                    | <p>るよう指導する。完全に回復しない場合もあるが、他のリハビリテーション対象疾患とは異なり、機能の回復が可能な疾患であることを強調しておきたい。</p> |
| <p>まとめ<br/>(5分)</p> | <p>主な確認事項、次回の予告</p> | <p>本時の事項について以下の点を例のように発問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同運動について。例：肩の屈筋共同運動パターンは？</li> <li>・ブルンストロームの回復段階について。例：痙性が最も強いステージは？</li> </ul> | <p>指導者の発問に答える。</p> | <p>答えられない場合は、ヒントを与え答えを導き出す。</p>   |

(7) 座席配置図



# 「保健理療科 東洋医学概論」学習指導案

指導者 小川 博之

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第5時限（13：30～14：20）
2. 対象 高等部専攻科理療科2年 生徒3名
3. 場所 理療科2年教室
4. 単元名 四診法（望診）
5. 単元の目標（ねらい）
  - ①東洋医学における診察法の1つである望診（視診）について、何を意識して診察するのか理解する。
  - ②特徴的な舌の望診（視診）について診察のポイントを説明し、患者の病態の判断に役立たせる。
6. 本時の展開

|             |  |
|-------------|--|
| 導入<br>(8分)  | <ul style="list-style-type: none"><li>・あいさつと出欠の確認</li><li>・前回授業で説明した内容の確認と質問</li></ul>   |
| 展開<br>(35分) | <ul style="list-style-type: none"><li>・望診法における診察部位と留意点の説明をする。</li><li>・東洋医学における望診では、具体的に何を意識しながら診察するのかを伝える。</li><li>・言葉での説明の他に、板書によるノートへの記入を促す。</li><li>・途中、これまでに教えた「五行色体」の復習の為に各生徒に質問を行う。</li></ul> <p><b>【指導上の注意事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・板書に際しては、書いている内容を言葉で説明しながら行う。</li><li>・東洋医学においては難しい漢字が頻繁に用いられる。そのため漢字の説明も含めて板書していく。</li></ul> <p><b>【評価基準】</b></p> <p>(ア) 望診において、術者は何を診なければならないか理解できたか。</p> <p>(イ) 望診の結果、身体がどのような状態にあるか理解できたか。</p> |
| まとめ<br>(7分) | <ul style="list-style-type: none"><li>・本日説明した内容を確認し、生徒への質問をしながら定着度を確認する。</li></ul>   |

# 「保健医療科 人体の構造と機能（生理学）」指導案

指導者 中垣 幸一

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第6時限（14：30～15：20）
2. 対象 高等部専攻科保健医療科1年 生徒3名
3. 場所 高等部専攻科保健医療科1年ホームルーム教室
4. 単元名 第10章 神経
5. 単元の目標（ねらい）
  - ・神経系ではニューロンの構造、機能、興奮伝達の性質、中枢神経系や末梢神経系の働きを学ぶ。本時ではシナプス伝達の構造と働きを理解する。

## 6. 本時の展開

|              |   |
|--------------|---|
| 導入<br>(5分)   | ・前時の学習内容をプリントの質問項目にそって復習する。                             |
| 展開①<br>(30分) | ・シナプスの構造と働きの概要を説明し、教科書に沿って内容を確認し、解説を加える。また重要なポイントを確認する。 |
| 展開②<br>(10分) | ・過去の国家試験問題からシナプス伝達、軸索伝導に関する問題を解答する。                     |
| まとめ<br>(5分)  | ・本時の学習内容の確認を発問しながら行う。                                   |

# 「保健医療科 生活と疾病（臨床医学各論）」指導案

指導者 井本 誠司

1. 日時 平成29年〇月〇日（〇）第2時限（9：50～10：40）
2. 対象 高等部専攻科保健医療科3年 生徒3名
3. 場所 専攻科保健医療科3年教室（A棟3階）
4. 単元名 第13章 感染症 第1章 細菌感染症
5. 単元の目標（ねらい）
  - ・感染症を起こす微生物の中で、細菌の感染により発症する疾患について学習し、個々の疾患の病原体・感染経路・症状等を学習する

## 6. 本時の展開

|              |   |
|--------------|---|
| 導入<br>(10分)  | ・病原体で代表的な細菌とウイルスの特徴を両者の違い（大き・構造・生態）を対比しながら細菌についてのイメージを把握する。                       |
| 展開①<br>(20分) | ・細菌感染症のジフテリア・百日咳・破傷風について病原体・感染経路・症状等について学習する。またこれらが三種混合ワクチンとして予防接種の対象であることを再確認する。 |
| 展開②<br>(15分) | ・練習問題をしながら学習内容を確認する。  |
| まとめ<br>(5分)  | ・本時で学習した細菌感染症について確認する。  |

大阪府立大阪北視覚支援学校幼稚部 研究授業アドバイスシート

( ) 月 ( ) 日 ( ) 時間 ( ) 保育者 ( )

評価は、◎…十分達成されている ○…概ね達成されている △…努力が必要 で記入ください。

| 項目     | 内容                                   | 評価 | アドバイス (気づいたこと) |
|--------|--------------------------------------|----|----------------|
| 保育環境   | 1 保育室の整理・整頓ができています。                  |    |                |
|        | 2 事故防止に努め、安全への配慮を行っている。              |    |                |
|        | 3 子どもが安心して保育を受けることができる雰囲気がある。        |    |                |
|        | 4 子どもが話をしている人 (先生など) の方を向いて聞こうとしている。 |    |                |
| 保育指導案  | 1 保育が幼児の実態に即した内容である。                 |    |                |
|        | 2 保育内容の量が適切である。                      |    |                |
|        | 3 保育の導入を工夫している。                      |    |                |
|        | 4 「導入→展開→まとめ」といった保育の流れや時間配分が適切である。   |    |                |
|        | 5 本時の目標 (ねらい) を概ね達成している。             |    |                |
| 基本的な指導 | 1 声の大きさや速さが適切である。                    |    |                |
|        | 2 聴覚や嗅覚、触覚を刺激する教材を上手く活用している。         |    |                |
|        | 3 子どもからの発信を受け止めている。                  |    |                |
|        | 4 子ども発言や反応を促す働きかけができています。            |    |                |
|        | 5 T2・T3の教師と役割分担ができています。              |    |                |
|        | 6 配慮の必要な子どもへの指導を行っている。               |    |                |
|        |                                      |    |                |
| その他    |                                      |    |                |

記入者 ( )

大阪府立大阪北視覚支援学校小学部 研究授業アドバイスシートA（準ずる課程）

（ ）月（ ）日（ ）（ ）限 教科（ ） 授業者（ ）

評価は、◎…十分達成されている ○…概ね達成されている △…努力が必要 で記入ください。

| 項目       | 内容  | 評価 | アドバイス（気づいたこと） |
|----------|---|----|---------------|
| 学習環境     | 1 教室の整理・整頓ができています。  |    |               |
|          | 2 授業の始業および終業のあいさつができています。   |    |               |
|          | 3 児童は、授業の準備（教科書など）ができています。  |    |               |
|          | 4 児童が、安心して授業を受けることができる雰囲気がある。   |    |               |
|          | 5 話をしている人のほうを向くなどの学習規律が徹底している。  |    |               |
|          | 6 児童は、授業に主体的に参加している。  |    |               |
|          | 7 事故防止に努め、安全への配慮を行っている。   |    |               |
|          | 8 児童への適切な支援や配慮を行っている。<br>・眼疾や見え方の理解、他の障がいへの配慮<br>・バーバリズム、ブラインディズムの理解                      |    |               |
| 基本的な指導技術 | 1 指導案が適切に作成されている。   |    |               |
|          | 2 授業のめあて（目標）を提示している。  |    |               |
|          | 3 授業の時間配分がうまくできている。   |    |               |
|          | 4 適切な声の大きさと聞き取りやすい。   |    |               |
|          | 5 指示や説明が明確でわかりやすい。  |    |               |
|          | 6 個別に指導助言を行っている。  |    |               |
|          | 7 適切に授業のまとめをしている。   |    |               |
|          | 8 児童の学習状況を評価している。   |    |               |
|          | 9 本時の目標（ねらい）を概ね達成している。  |    |               |
| 指導方法の工夫  | 1 授業の導入を工夫している。   |    |               |
|          | 2 学ぶ意欲を高める教材・補助具の工夫をしている（具体物、点図、立体コピー、レーズライター、文字のサイズやフォント、拡大図、ルーペ、単眼鏡、拡大読書機、書写台、ICT 機器等）。 |    |               |
|          | 3 児童が、考えをまとめて書いたり、発表したりする場面を設定している。   |    |               |
|          | 4 児童の発表や説明に対して、適切に指導している。   |    |               |
|          | 5 チームでTの役割分担ができています。  |    |               |
| その他      |   |    |               |

記入できるところだけ記入ください

記入者（ ）

大阪府立大阪北視覚支援学校小学部 研究授業アドバイスシートB（重複障がい児）

（ ）月（ ）日（ ）（ ）限 教科（ ） 授業者（ ）

評価は、◎…十分達成されている ○…概ね達成されている △…努力が必要 で記入ください。

| 項目       | 内容   | 評価 | アドバイス（気づいたこと） |
|----------|--|----|---------------|
| 学習環境     | 1 教室の整理・整頓ができています。                                 |    |               |
|          | 2 授業の始業および終業のあいさつができています。                          |    |               |
|          | 3 授業の流れ（見通し）がわかりやすい工夫をしています。                       |    |               |
|          | 4 授業に進んで参加しやすい雰囲気を作っている。                           |    |               |
|          | 5 話をしている人のほうを向くなどの指導をしている。                         |    |               |
|          | 6 事故防止に努め、安全への配慮を行っている。                            |    |               |
|          | 7 児童への適切な支援や配慮を行っている。                              |    |               |
| 基本的な指導技術 | 1 指導案が適切に作成されている。                                  |    |               |
|          | 2 子どもに伝わりやすい授業のめあてを設定している。                         |    |               |
|          | 3 授業の時間配分がうまくできている。                                |    |               |
|          | 4 児童の発表や説明に対して、必要に応じて個別に指導を行っている。                  |    |               |
|          | 5 児童の学習状況を評価している。                                  |    |               |
|          | 6 本時の目標（ねらい）を概ね達成している。                             |    |               |
| 指導方法の工夫  | 1 授業の導入を工夫している。                                    |    |               |
|          | 2 興味がわく教材・教具の工夫をしている。                              |    |               |
|          | 3 子ども自身が活躍する場面を設定している。                             |    |               |
|          | 4 他の併せ持つ障がいについて理解し、配慮している。                         |    |               |
|          | 5 基本的な指導方法（触察方法、探索活動、聴覚活用、表現活動、ボディーイメージなど）を理解している。 |    |               |
|          | 6 児童の実態、発達課題に合わせて、児童の理解できる速さで楽しい活動をしている。           |    |               |
|          | 7 外界への興味のわく内容、活動への期待が持てる話し方をしている。                  |    |               |
|          | 8 チームでTの役割分担ができています。                               |    |               |
| その他      |  |    |               |

記入できるところだけ記入ください

記入者（ ）



大阪府立大阪北視覚支援学校中学部 研究授業アドバイスシート

( ) 月 ( ) 日 ( ) ( ) 限 教科・領域 ( ) 授業者 ( )

| 観点        | 内容  | 気づいたこと |
|-----------|---|--------|
| 学習環境      | 1 授業の準備の方法を分かりやすく提示している。  |        |
|           | 2 授業の流れ(見通し)がわかりやすい工夫をしている。   |        |
|           | 3 授業に進んで参加しやすい雰囲気を作っている。  |        |
|           | 4 事故防止に努め、安全への配慮を行っている。   |        |
|           | 5 指導内容に合った教室内配置になっている。  |        |
| 指導技術      | 1 指導案が適切に作成されている。   |        |
|           | 2 生徒に伝わりやすい授業の目標を設定している。  |        |
|           | 3 授業の時間配分がうまくできている。   |        |
|           | 4 指示や説明が明確でわかりやすい。  |        |
|           | 5 必要に応じて個別に指導を行っている。  |        |
|           | 6 生徒の学習状況を評価している。   |        |
|           | 7 本時の目標を概ね達成している。   |        |
| 指導方法の工夫   | 1 授業の導入を工夫している。   |        |
|           | 2 基本的な指導方法(触察、探索活動、聴覚活用、表現活動など)を理解している  |        |
|           | 3 生徒自身が活躍する場面を設定している。   |        |
|           | 4 生徒の発表や説明に対して適切に指導している。  |        |
|           | 5 教材・教具の工夫をしている(具体物、レーザーライター、文字のサイズやフォント、ICT機器等)  |        |
|           | 6 チームでTの役割が分担されている。   |        |
| 重複障がいへの配慮 | 1 生徒の実態・発達課題に合わせて理解できる速さで活動をしている。   |        |
|           | 2 併せ持つ障がいについて理解し、配慮している。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢保持、麻痺による拘縮・脱臼への配慮</li> <li>・皮膚感覚過敏への配慮</li> <li>・集中力の問題、衝動性への配慮</li> <li>・難聴、聴覚過敏への配慮</li> <li>・自閉的傾向、情緒の安定への配慮</li> <li>・疾病への配慮</li> </ul> |        |

記入者 ( )

大阪府立大阪北視覚支援学校高等部普通科 研究授業アドバイスシートA（準ずる課程）

日時：（ ）月（ ）日（ ）（ ）限

教科：（ ）

授業者：（ ）

評価は、◎…十分達成されている ○…概ね達成されている △…努力が必要 で記入ください。

| 項目       | 内容  | 評価 | アドバイス（気づいたこと） |
|----------|---|----|---------------|
| 学習環境     | 1 学習場所（教室等）の整理・整頓ができています。                 |    |               |
|          | 2 授業の始業および終業のあいさつができています。                 |    |               |
|          | 3 生徒は、授業の準備（教科書など）ができています。                |    |               |
|          | 4 生徒が、安心して授業を受けることができる雰囲気がある。             |    |               |
|          | 5 私語をしない、話をしている人のほうを向くなどの学習規律が徹底している。     |    |               |
|          | 6 生徒は、授業に主体的に参加している。                      |    |               |
|          | 7 事故防止に努め、安全への配慮を行っている。                   |    |               |
|          | 8 支援や配慮が必要な生徒へ適切に対応している。                  |    |               |
| 基本的な指導技術 | 1 指導案が適切に作成されている。                         |    |               |
|          | 2 授業のめあて（目標）を提示している。                      |    |               |
|          | 3 授業の時間配分がうまくできている。                       |    |               |
|          | 4 適切な声の大きさと聞き取りやすい。                       |    |               |
|          | 5 指示や説明が明確でわかりやすい。                        |    |               |
|          | 6 板書はわかりやすく工夫している。*                       |    |               |
|          | 7 個別に指導助言を行っている。*                         |    |               |
|          | 8 適切に授業のまとめをしている。                         |    |               |
|          | 9 生徒の学習状況を評価している。                         |    |               |
|          | 10 本時の目標を概ね達成している。                        |    |               |
| 指導方法の工夫  | 1 授業の導入を工夫している。                           |    |               |
|          | 2 学ぶ意欲を高める教材教具の工夫をしている。*                  |    |               |
|          | 3 生徒が、考えをまとめて書いたり、発表したりする場面を設定している。*      |    |               |
|          | 4 生徒の発表や説明に対して、適切に指導している。*                |    |               |
|          | 5 本時の学習が次の学習や日常生活につながるよう工夫している。           |    |               |
|          | 6 学習方法を具体的に説明したり、点検したりするなど家庭学習の指導を行っている。* |    |               |

\*は該当授業のみ評価ください。



大阪府立大阪北視覚支援学校高等部普通科 研究授業アドバイスシートB（重複障がい）

日時：（ ）月（ ）日（ ）（ ）限

教科：（ ）

授業者：（ ）

評価は、◎…十分達成されている ○…概ね達成されている △…努力が必要 で記入ください。

| 項目       | 内容  | 評価 | アドバイス（気づいたこと） |
|----------|---|----|---------------|
| 学習環境     | 1 授業場所（教室等）の整理・整頓ができています。                 |    |               |
|          | 2 授業の始業および終業のあいさつができています。                 |    |               |
|          | 3 授業の準備の方法を分かりやすく提示しています。                 |    |               |
|          | 4 授業の流れ（見通し）がわかりやすい工夫をしている。               |    |               |
|          | 5 授業に進んで参加しやすい雰囲気を作っている。                  |    |               |
|          | 6 事故防止に努め、安全への配慮を行っている。                   |    |               |
|          | 7 指導内容に合った教室内配置になっている。                    |    |               |
| 基本的な指導技術 | 1 指導案が適切に作成されている。                         |    |               |
|          | 2 生徒に伝わりやすい授業の目標を設定している。                  |    |               |
|          | 3 授業の時間配分がうまくできている。                       |    |               |
|          | 4 適切な声の大きさと聞き取りやすい。                       |    |               |
|          | 5 指示や説明が明確でわかりやすい。                        |    |               |
|          | 6 板書や掲示物をわかりやすく活用している。*                   |    |               |
|          | 7 必要に応じて個別ごとに指導を行っている。                    |    |               |
|          | 8 適切に授業のまとめをしている。                         |    |               |
|          | 9 生徒の学習状況を評価している。                         |    |               |
|          | 10 本時の目標を概ね達成している。                        |    |               |
| 指導方法の工夫  | 1 授業の導入を工夫している。                           |    |               |
|          | 2 興味がわく教材・教具の工夫をしている。                     |    |               |
|          | 3 生徒自身が活躍する場面を設定している。                     |    |               |
|          | 4 生徒の発表や説明に対して、適切に指導している。                 |    |               |
|          | 5 本時の学習が次の学習や日常生活につながるよう工夫している。           |    |               |
|          | 6 学習方法を具体的に説明したり、点検したりするなど家庭学習の指導を行っている。* |    |               |
|          | 7 生徒の活動のよさを肯定的に評価している。                    |    |               |
|          | 8 1コマの授業を振り返ると、生徒一人ひとりが満足感や達成感を味わっている。    |    |               |

| 項目            | 内容 | 評価   | アドバイス（気づいたこと） |
|---------------|----|--|---------------|
| 視覚障がい<br>の専門性 | 1  | 生徒の見え方に合わせた教材（点字、墨字の書体・フォントなど）を作成している。*                        |               |
|               | 2  | バーバリズムを防ぐため、生徒が語句の名称だけでなく内容まで理解できているかを確認している。                  |               |
|               | 3  | 生徒はルーペや単眼鏡、拡大読書器などの補助具を適切に使用できている。*                            |               |
|               | 4  | 眼疾に応じた支援（緑内障の生徒は、眼圧に配慮し書写台を使用させるなど）を行っている。*                    |               |
|               | 5  | ICT 機器（PC、タブレット端末、ブレイルメモ、PLAX TALK、IC レコーダーなど）を活用する場面を設定している。* |               |
|               | 6  | 生徒の理解を深めるため、具体物や立体コピー、点図などを活用している。*                            |               |
|               | 7  | 全盲生徒にもわかりやすい具体的で構造化した説明ができています。                                |               |
| その他           |    |  |               |

\*は該当授業のみ評価ください。

記入者（ \_\_\_\_\_ ）

大阪府立大阪北視覚支援学校高等部理療科 研究授業アドバイスシート

月 日 ( ) 限 教科 ( ) 授業者 ( )

評価は、A…十分達成されている B…概ね達成されている C…努力が必要で記入ください。

| 項目                  | 評価   | アドバイス (気づいたこと) |
|---------------------|--|----------------|
| <b>I 学習環境</b>       |  |                |
| 1                   | 生徒は、授業の準備 (教科書など) ができている。                    |                |
| 2                   | 生徒は、授業に主体的に参加している。                           |                |
| 3                   | 事故防止に努め、安全への配慮を行っている。                        |                |
| <b>II 基本的な授業技術</b>  |  |                |
| 1                   | 授業のめあて (目標) を提示している。                         |                |
| 2                   | 指示や説明が明確でわかりやすい。                             |                |
| 3                   | 適切に授業のまとめをしている。                              |                |
| <b>III 指導方法の工夫</b>  |  |                |
| 1                   | 学ぶ意欲を高める教材・教具の工夫をしている。                       |                |
| 2                   | 本時の学習が次の学習につながるよう工夫している。                     |                |
| 3                   | 最後に、理解度をチェックしたり、まとめて書かせたりするなど、授業の振り返りを行っている。 |                |
| <b>IV 視覚障がいの専門性</b> |  |                |
| 1                   | 生徒の見え方に合わせた教材 (点字、墨字の書体・フォントなど) を作成している。     |                |
| 2                   | 生徒はルーペや単眼鏡、拡大読書機などの補助具を適切に使用できている。           |                |
| 3                   | 生徒の理解を深めるため、具体物や立体コピー、点図などを活用している。           |                |
| <b>V その他</b>        |  |                |